

目 次

I	平成30年度 さいたま市学習状況調査の概要	1
II	調査結果と特徴的な問題の解説	
i	小学校第3学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	4
2	調査問題一覧表【設問別】	5
3	特徴的な問題と解説	6
ii	小学校第4学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	8
2	調査問題一覧表【設問別】	9
3	特徴的な問題と解説	10
iii	小学校第5学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	12
2	調査問題一覧表【設問別】	13
3	特徴的な問題と解説	14
iv	小学校第6学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	18
2	調査問題一覧表【設問別】	19
3	特徴的な問題と解説	20
v	中学校第1学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	24
2	調査問題一覧表【設問別】	25
3	特徴的な問題と解説	26
vi	中学校第2学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	30
2	調査問題一覧表【設問別】	31
3	特徴的な問題と解説	32
III	調査結果概況【市全体】	36
IV	成果・課題と解決の糸口	39

I 平成30年度 さいたま市学習状況調査の概要

1 調査の目的

- (1) 各学校は、自校の教育の成果と課題について、市全体の状況を基に、継続的かつ多面的に把握・分析し、教育課程の編成に生かすとともに、「さいたま市小・中一貫教育」を踏まえ、教育指導の工夫改善に取り組む。
- (2) 児童生徒は、自らの学力面の伸びや課題及び生活面の成長や課題を継続的に把握し、理解することで、よりよい学習習慣や生活習慣の確立のために生かす。
- (3) さいたま市教育委員会（以下、「教育委員会」という。）は、児童生徒の学習や生活状況について、継続的かつ多面的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。さらに、そのような取組を通じて、学校における教育指導の継続的な工夫改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- (1) さいたま市立小・中・特別支援学校の原則として各学年の全児童生徒を対象とする。なお、これ以降、小学校及び特別支援学校小学部を「小学校」、中学校及び特別支援学校中学部を「中学校」と示す。
- (2) 「学力に関する調査」は小学校第3学年から中学校第3学年まで、「生活習慣等に関する調査」は全学年で実施する。
- (3) 特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。
 - ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒
 - イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒
- (4) 日本語指導が必要な児童生徒については、原則として、他の児童生徒と同様の授業を受けている場合、調査の対象とする。ただし、取出し指導を受けているなどの事情がある場合は、当該教科を調査の対象としないことを可能とする。

3 調査実施日等

- (1) 調査実施日は、平成31年1月9日(水)とする。
- (2) 小学校第1、2学年の「生活習慣等に関する調査」は、各学校の状況に応じて調査用紙の家庭への配付日を決定し、適切な回収期間を設定して実施する。
- (3) 小学校第3～6学年及び中学校における「生活習慣等に関する調査」は、各学校の状況に応じて別日に行うことを可能とする。ただし、学校または学年で実施日を統一して実施する。

4 調査の内容

- (1) 実施教科・時間・順序については、表1、2のとおりとする。

＜表1＞ 数字は調査に要する時間を示す。(単位：分)

調査対象		「学力に関する調査」 教科・時間・順序					「生活習慣等に関する調査」
		1校時	2校時	3校時	4校時		
		国語	算数	社会	理科		
小学校	第1学年						30
	第2学年						
	第3学年	20	20				
	第4学年	20	20				
	第5学年	40	40	40	40		
	第6学年	40	40	40	40		

＜表 2＞

数字は調査に要する時間を示す。(単位：分)

調査対象		「学力に関する調査」 教科・時間・順序 ※					「生活習慣等に関する調査」
		1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	
中学校	第1学年	国語	数学	理科	グローバル・スタディ (英語)	社会	30
		50	50	50	50	50	
	第2学年	国語	数学	グローバル・スタディ (英語)	社会	理科	
		50	50	50	50	50	
	第3学年	国語	数学	社会	理科	英語	
		50	50	50	50	50	

※ 第1、第2学年の「グローバル・スタディ」(英語) 及び第3学年の英語の調査は、リスニングテストを含むため、学年により実施順序を変えることとする。なお、網掛けは中学校長会主催の「さいたま市学力検査」を示す。

(2) 調査事項

ア 「学力に関する調査」

(ア) 小学校第3学年から中学校第2学年までの出題範囲は、「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラムに示された年間指導計画例を基本として、当該学年の11月までの指導事項を原則とする。

(イ) 出題の内容は、これまでの「さいたま市学習状況調査」及び「全国学力・学習状況調査」の課題に関わる内容を含め、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 当該学年及び前学年までの知識・技能等を中心とした出題（基礎問題）
- ② 当該学年及び前学年までの知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する出題（活用問題）
- ③ 課題解決に向けて思考し、判断する力、表現する力等に関わる内容の出題（チャレンジ問題）

(ウ) 出題の形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(エ) 中学校第3学年については、「平成30年度 さいたま市学力検査実施要項」及び「平成30年度 さいたま市学力検査問題作成要領」に基づく。

イ 「生活習慣等に関する調査」

(ア) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等について、調査する。ただし、個人の思想や信条等に踏み込んだ質問項目は設定しない。

(イ) 調査に要する時間は表1、2に示した時間を原則とするが、各学校・各学年の状況に応じて適切な時間を充てるものとする。

(3) 「さいたま市小・中一貫教育」に基づき、各教科において指導事項の定着状況を把握するために、複数学年で同一あるいは類似の問題を出題している。国語科については、以下の表のとおりである。

調査問題の概要	出題した学年と問題番号	備考
主語と述語の関係	小3 1 問二、小4 1 問二 小5 1 問二 問三、小6 1 問二 問三 中1 5 1、中2 5 1	類似問題
文章を的確に読む	小5 3 、小5 10 、小6 9 中1 2 、中2 2	類似問題

Ⅱ 調査結果と

特徴的な問題の解説

国語科の調査問題について、小学校第3学年から中学校第2学年まで、以下の内容を掲載しています。「さいたま市小・中一貫教育」の観点からも、小・中学校それぞれの内容を日々の学習指導に役立ててください。

1 調査問題【出題の趣旨】

大問ごとに、出題の意図や趣旨を示しています。特記すべき事項のあるものについては、ここに示しています。

2 調査問題一覧表

設問ごとに、問題の種類、学習指導要領の領域等、評価の観点、設問のねらい、市の正答率を示しています。

3 特徴的な問題と解説

平成30年度調査において、特徴的な問題を取り上げ、出題の趣旨、指導のポイントを示しています。

i 小学校第3学年

1 調査問題【出題の趣旨】

1 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	一	漢字	漢字を正しく読み、正しく書く力は、文や文章を理解したり表現したりするために必要な知識であり、漢字を含む語彙の充実を図る上でも重要である。ここでは、「お礼の手紙」の中で使う漢字を考える場面を設定した。なお、「親切」は、小3～小6でも出題している。
	二	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなし、明瞭な文を書く最も基礎的な事項であることから、平成29年度（正答率は77.2%、69.6%）同様、今年度も出題した。なお、類似の問題を小3～小6でも出題している。
	三	主語と述語	「主語と述語の関係の理解」については、毎年課題となっているため、平成27年度の全国調査A2を参考に、出題形式を変えた問題を作成した。なお、類似の問題を小3～小6でも出題している。
2 書くこと		お礼の手紙を書く	本問題は、相手や目的に応じて、敬体と常体との違いに注意して書くことができるかどうかをみる問題で、平成27年度市調査【小3】（正答率は65.7%）を参考に作成した。ここでは手紙を出す相手が、敬体を使って文章を書かなければならない目上の人であるということ、教えてもらったお礼の気持ちを伝えるということを押さえ、適切に書く力が求められる。
3 話すこと・聞くこと		学級文集のタイトルを話し合う	本問題は、互いの考えを聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うことができるかどうかをみる問題であり、平成29年度の全国調査A1を参考に作成した。ここでは、グループで話し合ったことを学級全員に伝えるため、各グループの報告者がどのようなことを報告しているかを捉える力が求められる。
4 書くこと		「今、夢中になっていること」についての紹介文を書く	本問題は、段落相互の関係などに注意して文章を構成できるかどうかをみる問題で、平成29年度市調査【小3】（正答率は83.4%）を参考に作成した。ここでは、4つの段落に分けた原稿や紹介文の内容と4枚のカードの内容とを対応させ、文章を構成する力が必要である。なお、類似の問題を小4でも出題している。
5 書くこと		転校した友達にはがきを書く	本問題は、はがきの表書きに必要な事柄の順序を考えて書くことができるかどうかをみる問題である。そのために、転校した友達にはがきを書く場面を設定した。はがきが相手に確実に届くようにするためには、はがきの表に右側から縦書きで「相手の住所」、「相手の名前」、「自分の住所」、「自分の名前」の順序で書くことを理解している必要がある。なお、同一の問題を小4でも出題している。
6 読むこと		3まいの絵を使って読み聞かせをする	本問題は、登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えることができるかどうかをみる問題である。そのために、【『どうするティリー?』の一部】を【3枚の絵】を使って、1年生に読み聞かせをする場面を設定した。ここでは、登場人物の行動や場面が変化したことが分かる言葉や文を見付けながら読む力が求められる。

※全国学力・学習状況調査の平均正答率は、さいたま市の平均正答率を示している。
本書では、調査名について、略称を用いている。

略称	調査名
平成○年度全国調査	平成○年度 全国学力・学習状況調査
平成○年度市調査【小○】【中○】	平成○年度 さいたま市学習状況調査 小○国語 中○国語

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題			学習指導要領の領域等				評価の観点					問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	チャレンジ問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式・記述式・短答式・選択式	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1ーア	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（親）	○						○					○	選	57.9	1.6			小4 小5 小6	69.7 76.5 86.6
1ーイ	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（遠）	○						○					○	選	69.0	2.2				
1ーウ	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（外）	○						○					○	選	81.8	2.0				
1ーエ	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（聞）	○						○					○	選	68.4	2.1				
1ーオ	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（気）	○						○					○	選	75.7	2.7				
1ニア	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○						○					○	選	77.9	8.0	H29市【小3】	77.2	小4	85.8
1ニイ	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○						○					○	選	56.9	8.2	H29市【小3】	69.6	小4	76.1
1三ア	文を構成する主語と述語の関係を捉えることができる。	○						○					○	選	87.4	2.6			小4	92.0
1三イ	文を構成する主語と述語の関係を捉えることができる。	○						○					○	選	81.6	2.6			小4	87.3
2	相手や目的に応じて、敬体と常体との違いに注意して書くことができる。	○				○					○			選	87.3	2.8	H27市【小3】	65.7		
3	互いの考えを聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うことができる。	○				○			○	○				選	47.5	4.4	H29全国【小6】	69.3		
4	段落相互の関係などに注意して文章を構成することができる。	○				○					○			選	78.8	6.4	H29市【小3】	83.4		
5	はがきの表書きに必要な事柄の順序を考えて書くことができる。	○				○					○			選	42.7	9.0			小4	52.8
6絵2	登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えることができる。	○					○		○			○		選	69.2	19.4				
6絵3	登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えることができる。	○					○		○			○		選	55.7	20.4				

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。
 複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には○を付けている）。
 調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査
 なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。
 ※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。
 「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。
 ※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。
 ★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

小学校第3～6学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

特徴的な問題

問題 (3年)(4年)(5年)(6年) 大問1 ア～オ

出題の趣旨

本問題は、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる問題である。そのために、手紙や見学のまとめといった日常で使われる場面を設定し、その中で漢字を適切に選ぶことができるかを問う問題構成とした。なお、「しんせつ」は、小3～6年の全ての学年で出題した。

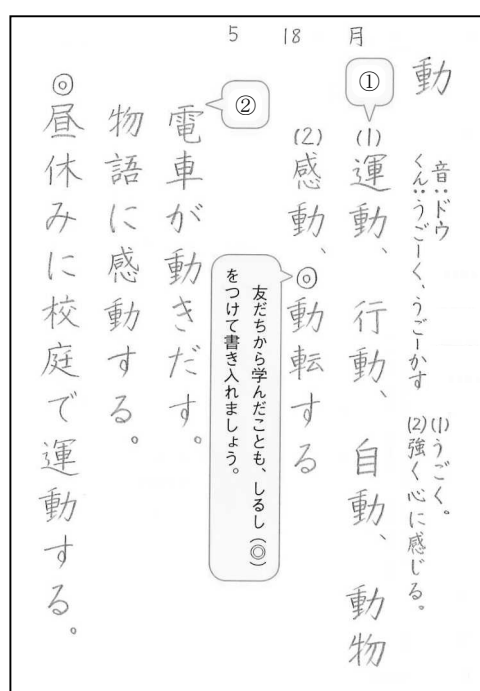
指導のポイント

1 学習した漢字を日常生活の中で使おうとする習慣を身に付ける

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」の中には「漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにする」とある。

漢字の学習では、書き方、部首、意味等を学習し、正しく書けるかどうかテストを使って確かめるといった形式が多くみられる。しかしながら、テストでは書けるものの、日常の文の中になると平仮名で書いてしまっていたり、正しく書けていなかったりする児童が多い。これは、学習した漢字が「日常の中で使えるものである」という意識が定着していないことが原因であると考えられる。

そこで、漢字練習の際は、学習した漢字の書き方のみを練習するのではなく、新出漢字を使った熟語を調べたり(①)、文を作ったり(②)するなど、文や文章の中で使うことが意識できるよう練習方法を工夫したい。また、他教科や日常生活の中でも、学習した漢字を積極的に使い、漢字を使うことを習慣化できるよう意識して指導したい。



2 漢字辞典や国語辞典を使って漢字の読み方や意味、熟語、同音異義語等を確認する

漢字の学習の際には、書き方を確認するだけでなく、漢字辞典や国語辞典を使って新しく学習した漢字を使った熟語を調べて語彙を増やしたり、同音異義語を確認したりするなど、漢字のもつ意味を考えて使う習慣を身に付けられるようにしていきたい。

【漢字学習の例】

- (1) 漢字の読み方（音読みと訓読み）を確認する。
- (2) 部首を確認する。
- (3) 新しい漢字を使った熟語や言葉を発表する。
- (4) 熟語や言葉の意味を辞書で調べる。

◆同音異義語や熟語の構成、漢字の成り立ち等を確認することによって、言葉の特徴や使い方に関する事項の学習を定着させることができる。

(参照)

- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」
- ・「ひろがる言葉 小学国語 3上」 教育出版

ii 小学校第4学年

1 調査問題【出題の趣旨】

[1] 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	一	漢字	漢字を正しく読み、正しく書く力は、文や文章を理解したり表現したりするために必要な知識であり、漢字を含む語彙の充実を図る上でも重要である。ここでは、「手紙」の中で使う漢字を考える場面を設定した。なお、「親切」は、小3～小6でも出題している。
	二	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなし、明瞭な文を書く最も基礎的な事項であることから、平成29年度（正答率は54.0%、75.6%）同様、今年度も出題した。なお、類似の問題を小3～小6でも出題している。
	三	主語と述語	「主語と述語の関係の理解」については、毎年課題となっているため、平成27年度全国調査A[2]を参考に、出題形式を変えた問題を作成した。なお、類似の問題を小3～小6でも出題している。
[2] 書くこと		オルゴール館のしょうかい文を書く	本設問は、段落相互の関係などに注意して文章を構成できるかどうかをみる問題で、平成29年度市調査【小4】（正答率は78.8%）を参考に作成した。ここでは、4つの段落に分けた原稿や紹介文の内容と4枚のカードの内容とを対応させ、文章を構成する力が必要である。なお、類似の問題を小3でも出題している。
[3] 読むこと	一	「節分」についての資料を読む	本問題は、目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読むことができるかどうかをみる問題であり、平成29年度全国調査A[3]を参考に作成した。ここでは、「何のために調べるのか」、「何について調べるのか」など、調べる目的に応じて中心となる語や文、段落を適切に捉えて読む力が求められる。
	二		
[4] 話すこと・聞くこと		市役所への行き方を説明する	本問題は、相手や目的に応じて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことができるかどうかをみる問題であり、平成30年度全国調査A[1]を参考に作成した。ここでは、相手や目的、場面、状況などに応じて適切に説明の仕方を工夫する力が求められる。説明の仕方を工夫するとは、言葉を置き換えること、内容や順序を考えること、相手の理解の状況を確認しながら説明することなどが考えられる。
[5] 書くこと		転校した友達にはがきを書く	本問題は、はがきの表書きに必要な事柄の順序を考えて書くことができるかどうかをみる問題である。そのために、転校した友達にはがきを書く場面を設定した。はがきが相手に確実に届くようにするためには、はがきの表に右側から縦書きで「相手の住所」、「相手の名前」、「自分の住所」、「自分の名前」の順序で書くことを理解している必要がある。なお、同一の問題を小3でも出題している。
[6] 話すこと・聞くこと		田中さんの発表に質問する	本問題は、話の中心に気を付けて聞き、質問することができるかどうかをみる問題である。そのために、「みんながくらしやすいくふう」について調べたことの発表を聞いて、質問を考える場面を設定した。ここでは、話し手への質問が、どのようなねらいをもつものであるかを適切に捉える力が求められる。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題			学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	チャレンジ問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式・短記式・記述式・短答式	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年
1ーア	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。 （温）	○						○				○	選	71.8	1.0				
1ーイ	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。 （屋）	○						○				○	選	64.1	1.5				
1ーウ	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。 （親）	○						○				○	選	69.7	1.3			小3 小5 小6	57.9 76.5 86.6
1ーエ	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。 （場）	○						○				○	選	69.4	1.4				
1ーオ	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。 （習）	○						○				○	選	89.6	1.3				
1ニア	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○						○				○	選	85.8	2.8			小3	77.9
1ニイ	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○						○				○	選	76.1	2.9			小3	56.9
1三ア	文を構成する主語と述語の関係を捉えることができる。	○						○				○	選	92.0	1.5			小3	87.4
1三イ	文を構成する主語と述語の関係を捉えることができる。	○						○				○	選	87.3	1.5			小3	81.6
2	段落相互の関係などに注意して文章を構成することができる。	○				○				○			選	87.8	1.6	H29市【小4】	78.8		
3中林	目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けて読むことができる。	○					○		○		○		選	78.3	2.5				
3金田	目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けて読むことができる。	○					○		○		○		選	90.6	2.6				
4	相手や目的に応じて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことができる。	○			○				○				選	79.1	2.7	H30全国【小6】	90.9		
5	はがきの表書きに必要な事柄の順序を考えて書くことができる。	○				○				○			選	52.8	3.5			小3	42.7
6	話の中心に気を付けて聞き、質問することができる。	○			○				○	○			選	67.4	6.3	H24全国【小6】	65.5		

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

特徴的な問題

問題 (3年) 大問4 (4年) 大問2

出題の趣旨

本問題は、段落相互の関係などに注意して文章を構成できるかどうかをみる問題である。そのために、3年生では、「今、夢中になっていることについての紹介文」を書く場面、4年生では、「オルゴール館についての紹介文」を書く場面を設定した。ここでは、4つの段落に分けた原稿や紹介文の内容と4枚のカードの内容とを対応させ、文章を構成する力が必要である。

指導のポイント

1 段落相互の関係などに注意して文章の構成を考える力を習得する

段落相互の関係に注意して文章の構成を考えると、書く文章の種類や特徴を踏まえ、段落と段落の関係に気を付けて文章の構成を考えることである。段落相互の関係として

は、例えば、考えとそれを支える理由や、考えとそれを具体的に述べる事例といった関係、列挙された事例同士の関係などがある。書く内容の中心を明確にした上でこうした関係に注意し、文章の構成を考えることが重要である。また、「冒頭部―展開部―終結部」などの文章の展開や文章の種類に応じて、それぞれの部分に何を書くのか、それらがどのようにつながるのかを強く意識して、自分の考えが明確になるように工夫することも重要である。

2 具体的な事例を挙げて、分かりやすく説明する

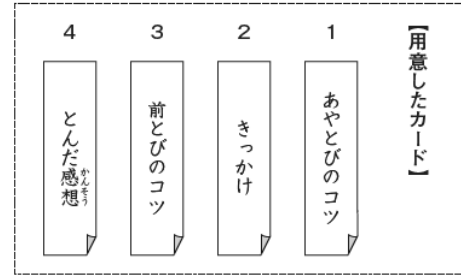
伝えたいことを相手に分かりやすく説明するためには、伝えたいことの中心を明確にし、その内容に合った具体的な事例を挙げて書くことが効果的であることを理解できるように指導することが重要である。その際、具体的な事例とは、エピソードとなるようなまとまったものや、具体的な本や文章、絵や写真など事物そのものの描写や説明であることを捉えさせることが必要である。その上で、伝えたいことに結び付く自分の経験や学習した事柄を具体的な事例として挙げるのが大切であることに気付けるようにする。

具体的には、伝えたいことを説明する文章について、具体的な例を挙げて書いたものと挙げていないものを提示し、読み比べる学習を行うことが考えられる。比べることで、児童に具体的な事例を挙げて書いた方が、伝えたいことを相手に分かりやすく説明できることを実感させる。

また、具体的な事例を挙げないで書いている文章のみを提示し、児童に、伝えたいことを相手に分かりやすく説明することができるように改善させる指導も考えられる。具体的な事例を説明する際には、「例えば～」、「例を挙げると～」、「～などが当たる。」「～を例に挙げて説明する。」などの表現があることについて指導することが大切である。

(参照)

- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」
- ・国立教育政策研究所「平成27年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」



【3年生出題問題】

山田さんが書いたしうかい文

わたしが今、むちゅうになっていることは、なわとびです。なわとびにむちゅうになったのは、お姉ちゃんがあやとびをしているのを見て、「わたしもできるようにしたい。」と思ったのがきっかけです。

まず、前とびをしました。前とびのコツは、なわをリズムよく回すことです。お姉ちゃんは、歌いながら四十回もせいこうさせていました。

次に、あやとびにしようせしました。お姉ちゃんが「手を返してなわを回すと、うまくいくよ。」と、あやとびのコツを教えてくださいました。

それを意識してとんでみると、二回とべました。とてもうれしかったです。これからも一生けんめい練習して、お姉ちゃんみたいにたくさんとべるようになりたいです。

④ 次の1～4は、山田さんが「今、むちゅうになっていること」についてしうかい文を書くときに「用意したカード」です。山田さんはどのように組み立てて書いたのでしょうか。「山田さんが書いたしうかい文」に合わせて、四まいのカードをじゅんばんにならべかえ、その番号を書きましよう。

小学校第4学年 話すこと・聞くこと

特徴的な問題

問題 大問6

出題の趣旨

本問題は、話の中心に気を付けて聞き、質問することができるかどうかをみる問題である。そのために、「みんながくらしやすいくふう」について調べたことの発表を聞いて、質問を考える場面を設定した。ここでは、話し手への質問が、どのようなねらいをもつものであるかを適切に捉える力が求められる。

指導のポイント

1 ねらいを明確にして質問することを学び、実践する

話の中心や話し手の意図を捉えながら聞き、ねらいを明確にして質問することが重要である。そのためには、話題について興味や関心をもち、聞く目的を明確にしながら聞く場を設定するとともに、話の要点や気付いたこと、疑問に思ったことなどをメモにとりながら話を聞くことができるように指導することが大切である。また、低学年では、比較的自由な立場からの質問を許容すること、中学年以降では、目的や立場を明確にして質問できるよう指導することが重要である。

なお、質問する際の観点については、次のようなものが考えられる。

【質問する際の観点】

言葉の定義や意味を知ろうとする質問

抽象的な表現を具体化する質問

調べた目的、理由、背景について知ろうとする質問

根拠となる情報源や活用した資料を知ろうとする質問

話し手の意図や結論を確認する質問

自分の経験や意見と比べようとする質問

自分の理解度を確かめようとする質問

指導事例「質問したいことをカードに書いて整理しよう」

- ⑥の【青山さんの発表のはじめの部分】を聞き、質問したい内容をカードに書く。
①まず、教師による全文通読を聞き、質問したい内容をカードに書く。
②次に、一文ずつ聞き、さらに質問したい内容を書く。

- 書いたカードの内容が、どのような観点に即しているかを整理する。

(参照)

【質問を書いたカードを観点に即して整理している例】

調べた目的、理由、背景について知ろうとする質問

○なぜ、駅を調べようと思ったのですか。

○なぜ、駅の中のくふうに注目しようと思ったのですか。

抽象的な表現を具体化しようとする質問

○「家の近くにある駅」とは、何駅ですか。

○「子どもを連れた人など」の「など」は、どのような人ですか。

根拠となる情報源や活用した資料を知ろうとする質問

○「多くの人…」とは、どの資料をもとにしていますか。

○駅の写真は、どのように手に入れたのですか。

言葉の定義や意味を知ろうとする質問

○「だれもがりようしやすい」とは、どのような状態ですか。

○「高齢者」とは、どのような人ですか。

- ・国立教育政策研究所 「平成24年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」
- ・国立教育政策研究所「平成24年度 全国学力・学習状況調査を踏まえた授業アイディア例 小学校」

iii 小学校第5学年

1 調査問題【出題の趣旨】

1 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	一	漢字	ここでは、「お礼の手紙」の中で使う漢字を考える場面を設定した。なお、「親切」は、小3～小6でも出題している。
	二	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなし、明瞭な文を書く最も基礎的な事項であることから、平成29年度（正答率は74.0%、46.8%）同様、今年度も出題した。なお、類似の問題を小3～小6でも出題している。
	三	主語と述語	「主語と述語の関係の理解」については、毎年課題となっているため、平成27年度の全国調査A[2]を参考に、出題形式を変えた問題を作成した。なお、類似の問題を小3～小6でも出題している。
2 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		「外郎売」を音読する	本問題は、古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読むことができるかどうかをみる問題であり、平成29年度全国調査A[6]（正答率は77.4%）を参考に作成した。ここでは、声に出して読むことで感じられる言葉の響きやリズムなどについて、楽しみながら読む力が求められる。
	3 読むこと	パン屋のチラシを読む	本問題は、目的や意図に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読むことができるかどうかをみる問題であり、平成19年度全国調査B[4]（正答率は68.6%）を参考に作成した。ここでは、文字や数字、イラストなどがどのような関係で組み合わせられているのかを理解し、情報を適切に読む力が求められる。
4 読むこと	一	好きな俳句について話し合う	本問題は、俳句の情景を捉えることができるかどうかをみる問題であり、平成29年度全国調査A[4]（正答率は79.8%、60.4%）を参考に作成した。ここでは、声に出して読みながら、二つの句に共通すること、作者が捉えた情景や季節感を捉える力が求められる。
	二		
5 書くこと		「かるたの遊び方」を書き直す	本問題は、書き手の表現の仕方に着目して助言し合うことができるかどうかをみる問題であり、平成28年度全国調査A[3]（正答率は73.6%）を参考に作成した。ここでは、どのように書き直すと読み手にとって分かりやすい表現となるかを考える力が求められる。
6 書くこと		「母は」を主語にして書きかえる	本問題は、目的や意図に応じて、表現の効果について確かめたり工夫したりすることができるかどうかをみる問題であり、平成23年度全国調査A[5]（実施無し）を参考に作成した。ここでは、前後の文脈を捉え、わたしと母の関係を適切に捉えながら、文に書き換える力が求められる。
7 書くこと		学級新聞の記事を書く	本問題は、目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書くことができるかどうかをみる問題であり、平成24年度全国調査A[7]（正答率は46.0%）を参考に作成した。ここでは、取材した3つの内容を、学級新聞の記事のリード文に続けて書く力が求められる。
8 話すこと・聞くこと		保健委員会からの提案を聞く	本問題は、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題であり、平成27年度全国調査A[3]（正答率は59.9%）を参考に作成した。ここでは、聞き手である高山さんが聞き方をどのように工夫しているかを捉える力が求められる。
9 話すこと・聞くこと		質問をするために話し合う	本問題は、立場や意図を明確にし、情報を整理しながら話し合うことができるかどうかをみる問題であり、平成24年度全国調査B[2]（正答率は85.9%）を参考に作成した。ここでは、出された質問の内容を適切に捉え、それぞれのまとまりに示されている観点に即して整理する力が求められる。
10 読むこと	一	博物館のちらし	本問題は、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、複数の情報を関係付けながら、文章を読む力が求められる。なお、同一の問題を小6でも出題している。
	二	を読む	

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題			学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題			
		基礎問題	活用問題	チャレンジ問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	に伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式・短答式・記述式・選択式・短答式	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）	
1ーア	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（験）	○						○					○	選	85.4	0.6					
1ーイ	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（集）	○						○					○	選	74.3	0.5					
1ーウ	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（満）	○						○					○	選	90.9	0.6					
1ーエ	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（努）	○						○					○	選	85.3	0.6					
1ーオ	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（親）	○						○					○	選	76.5	0.6			小3 小4 小6	57.9 69.7 86.6	
1ニア	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○						○					○	選	85.6	1.1	H29市【小5】	74.0	小6	88.4	
1ニイ	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○						○					○	選	61.4	1.2	H29市【小5】	46.8	小6	61.5	
1三ア	文を構成する主語と述語の関係を捉えることができる。	○						○					○	選	69.3	0.7			小6	73.2	
1三イ	文を構成する主語と述語の関係を捉えることができる。	○						○					○	選	87.4	0.7			小6	89.5	
2	古文における言葉の響きやリズムを楽しむながら読むことができる。	○						○					○	選	74.7	0.6	H29全国【小6】	71.3			
3	目的や意図に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読むことができる。		○						○			○		選	80.8	0.4					
4ー	俳句の情景を捉えることができる。	○							○				○		選	83.8	0.7	H29全国【小6】	79.5		
4二	俳句の情景を捉えることができる。	○							○				○		選	54.9	0.8	H29全国【小6】	57.1		
5	書き手の表現の仕方に着目して助言し合うことができる。	○					○				○			選	70.4	0.7	H28全国【小6】	67.6			
6	目的や意図に応じて、表現の効果について確かめたり工夫したりすることができる。	○					○				○			記	65.5	1.9					
7	目的や意図に応じて、必要な事柄を整理して簡潔に書くことができる。	○					○			○				記	39.1	2.8	H24全国【小6】	43.7			
8	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができる。	○			○					○				選	73.6	1.5					
9	立場や意図を明確にし、情報を整理しながら話し合うことができる。		○		○					○				選	84.3	2.6	H24全国【小6】	84.4			
10ー	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読むことができる。			○				○				○		選	51.2	3.1			小6	62.0	
10二	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読むことができる。			○				○				○		選	69.5	3.6			小6	80.3	

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げて（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

小学校第5・6学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

特徴的な問題

問題 (5年) 大問2 (6年) 大問2

出題の趣旨

本問題は、古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読むことができるかどうか(5年)、また、古文における昔の人のものの見方や感じ方を考えながら読むことができるかどうか(6年)をみる問題である。そのために、歌舞伎の作品「外郎売」を音読して、気が付いたことをまとめる場面を設定した。ここでは、声に出して読むことで感じられる言葉の響きやリズムなどについて、楽しみながら読む力(5年)、昔の人のものの見方や感じ方に関心をもち、現代人のものの見方や感じ方と比べながら読む力(6年)が求められる。

指導のポイント

1 音読することで、古文の楽しさを実感する

古文や漢文などは、読んで楽しいものであること、自分を豊かにするものであることを実感することができるように指導することが重要である。そのためには、古文や漢文などの文章の解釈に重点を置くのではなく、できるだけ多くの文章に触れていく中で、自然と興味・関心をもてるようにすることが大切である。また、教材は児童が言葉のリズムを実感しながら読めるもの、音読することによって内容の大体を知ることができるものを選定することが大切である。また、文語調の文章で作詞されている校歌、各地域に縁のある文人の作品など、児童にとって親しみやすいものを教材にすることが考えられる。具体的には、本問題のように、音読や暗唱を取り入れることが考えられる。その際、音読することによって味わえるリズムや響きを一層実感することができるようにするために、黙読と音読とを交互に行い、その違いに気付くことができるようにすることが効果的である。また、児童が選んだ古文を音読して紹介し合い、複数の古文や様々な言葉のリズムに触れることができるようにすることも考えられる。低学年の段階から、児童の実態に応じて、教科書に掲載されている作品と関連するものを多く提示し、音読や暗唱をするなどして、古文の楽しさを実感できるように、計画的、継続的に指導することが大切である。また、こうした関連図書を教室や学年の本棚に置いたり、児童の発達の段階に応じた図書や音声による教材などの紹介コーナーを学校図書館に設置したりすることも考えられる。

2 古典を解説した文章を活用する

古典を解説した文章を読むことによって、それぞれの時代における人々がどのようなものの見方や感じ方をしていたのか、伝統的な言語文化がどのように変遷してきたのかを、生活や文化とともに知ることができる。解説の内容を基に、昔の人々の生活や文化など、古典の背景をできる限り易しく理解させ、昔の人のものの見方や感じ方に関心をもたせたり、現代人のものの見方や感じ方と比べさせたりして、古典への興味・関心を深めるようにすることが重要である。また、言語文化への興味・関心を深めるために、能、狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎、落語などを鑑賞することも考えられる。

(参照)

- ・文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」
- ・国立教育政策研究所「平成29年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」

1 使われている言葉やリズム、声に出したときの感じをまとめてみる。

2 言いえが多いので、意味がとらえにくくなっていることをまとめてみる。

3 昔の人々の声の出し方がいかに注目して、昔と今の違いをまとめてみる。

4 くりかえし出てくる言葉を、どのように読むと分かりやすいかをまとめてみる。

※① 歌舞伎……約四百年前に始まった演げき

※② 「外郎売」……「外郎」という漢字を売って歩く人

「外郎売」の一部

菊葉さくくりさくくり、
合せて合せて菊葉さくくり。
あななげの長髪刀は
たがを離れぞ。

フートの一部

○音読して、気が付いたこと
・くりかえしが多い。
・似ている言葉がある。
・早口言葉のようであもしろい。
・拍子を取りたい。

② 小林さんは、歌舞伎の作品「外郎売」を音読して、気が付いたことをノートにまとめています。次は、音読した「外郎売」の一部と「フートの一部」です。小林さんが、気が付いたことの説明として最も適切なものを、あとの1〜4の中から一つ選び、その番号を書きましょう。

【5年生出題問題】

小学校第5学年 書くこと

特徴的な問題

問題 大問7

出題の趣旨

本問題は、目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書くことができるかどうかをみる問題である。そのために、学校の書きぞめ大会でのクラスの友達の活躍を学級新聞の記事に書く場面を設定した。ここでは、取材した3つの内容を、学級新聞の記事のリード文に続けて書く力が求められる。

指導のポイント

1 調べたことなどを基に新聞を書く

指導の際には、相手や目的に応じて、書く材料の収集や選択の仕方、まとめ方などを工夫することが大切である。

例えば、題材としては、自分が経験したことや身の回りで起きた出来事、学習した内容などを取り上げることが考えられる。それらを基に新聞を書くためには、紹介や案内、報告などの複数の種類の文章を編集し、割り付けを工夫した上で、効果的な見出しを付けたり、読者に分かりやすい記事を書いたりすることができるようにねらいをしばり指導することが大切である。



2 文の論理を考えて書く

目的や意図に応じて、伝えたい内容を明確に伝えるためには、文の論理を考えながら、一文一文を的確につなげて書くことが重要である。主語と述語の関係や修飾と被修飾の関係のを的確に押さえ、重文や複文についての理解が深まるように指導することが大切である。また、事実と意見の関係、理由や根拠と結論の関係などを的確に押さえることも大切である。一文が長くなる場合においては、適切な接続語を使って二文に分けるなどして、簡潔に書くことができるように指導することが大切である。

(参照)

- ・ 国立教育政策研究所「平成24年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」
- ・ 国立教育政策研究所「平成22年度 全国学力・学習状況調査を踏まえた授業アイデア例 小学校」

【取材した内容の一部】

① 一月九日に、第二小学校では書きぞめ大会が行われた。

② 校内でのしん査の結果、二組からは、金子さん、竹田さん、見村さんの三人の作品が金賞に選ばれた。

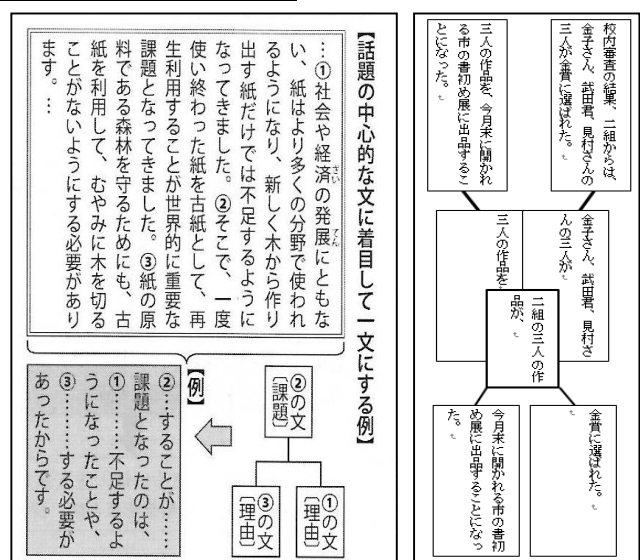
③ 三人の作品は、今月末に開かれる市の書きぞめ展に出品されることになった。

【学級新聞の記事の一部】

一月九日 書きぞめ大会 開さい！
おめでとう！
金子さん、竹田さん、見村さん！

校内でのしん査の結果、二組の三人の作品が、
(記事が続く)

【7】 中西さんは、学校の書きぞめ大会でのクラスの友達の活躍を、学級新聞の記事として書くことにしました。『学級新聞の記事の一部』の中に、『取材した内容の一部』の②と③を一文にまとめて書きます。書き出しの言葉に続く内容を、三十文字以上、四十文字以内で書きましょう。



小学校第5学年 読むこと

特徴的な問題

問題 大問3

出題の趣旨

本問題は、目的や意図に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読むことができるかどうかをみる問題である。そのために、田村さんの家に配られたパン屋のチラシを読む場面を設定した。ここでは、文字や数字、イラストなどがどのような関係で組み合わされているのかを理解し、情報を適切に読む力が求められる。

指導のポイント

1 情報を的確に読む力を育てる

自分の課題に即して検索し、情報を的確に読むためには、同じ目的や用途をもつ複数の情報を同じ観点で比較したり、評価したりすることが有効である。この問題で取り上げたチラシのような広告の場合は、「買いたい品物の有無」や「価格の高低」「セール期間」「サービスの内容」などの観点到に着目し、比較したり、評価したりする。そうすることで、情報の妥当性や信頼性を考えることができる。こういった能力は、国語科だけでなく、他教科・領域等の調べ学習でも有効であり、情報化社会においても必要不可欠と言える。

2 目的に応じて、文章を図表やグラフなどと関係付けて読む

日常生活の中で触れる説明の文章の多くは、図表やグラフなど何らかの資料を用いて書かれている。目的に応じて文章と図表やグラフなどを関係付け、的確に読むことができるようにすることは、実生活で生きて働き、各教科等の学習の基本となる国語の能力を育てることにつながる。

具体的には、自分の課題を解決するために、新聞やパンフレットなど複数の資料から必要な図表などを選び、選んだ図表やグラフから分かることを関係付けて読むことができるように指導することが必要である。他にも、チラシやカタログ、地図、プログラム、説明書、招待状、作文や文集など、児童の実生活に結び付いた資料を活用するようにする。その際、例えば、目的や意図に応じて、必要な情報を丸で囲んだり色を付けたりしてから、矢印等でつなげてまとめるなどが考えられる。また、必要な情報の大体を付箋紙に書き、整理することも考えられる。

こうした学習経験は、国語科だけでなく、各教科等の学習で積み重ねていくことが重要である。例えば、修学旅行で行く「日光東照宮」でのグループ見学の計画を考える学習活動において、「日光東照宮」の地図やパンフレットなどを集め、限られた時間内での行動等の条件を考えながら、必要に応じて読み取った情報を関係付け、見学する場所についての自分の考えをまとめることなどが考えられる。

(参照)

- ・ 国立教育政策研究所「平成19年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」
- ・ 国立教育政策研究所「平成28年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」

ペーカリーショップ コスモ

営業時間 午前10時～午後7時

開店セール
2月2日(土)・3日(日)の2日間!!

メロンパン  130円が 85円	フルーツサンド  30%引き
チョココロネ 	ミニ焼きそばパン  1個70円が、2個で100円

開店セール中(2日・3日とも)
1 しぼりたてのジュースが1ばい無料!
2 食パンを30名様にプレゼント!

みなさん、お待ちしております。

4 開店セールは、毎週、土曜日に開催されている。

3 この店は、夜八時に行っても買いたい物を揃えることができます。

2 開店セール中、お客様全員が必ず食パンをもらうことができます。

1 メロンパンは、ふだんの一つ分の金額で二つ買つていただけます。

田村さんは、この店のチラシの内容を友達に説明しようとしています。その説明として、ふさわしいものを次の1～4の中から一つ選び、その番号を書きましょう。

③ 次は、田村さんの家に配られたパン屋のチラシです。よく読んで下の問いに答えましょう。



チラシ



新聞



地図



説明書

小学校第5学年 読むこと

特徴的な問題

問題 大問4

出題の趣旨

本問題は、俳句の情景を捉えることができるかどうかをみる問題である。そのために、好きな俳句をグループで選び、俳句について考えたことを交流する場面を設定した。ここでは、声に出して読みながら、二つの句に共通すること、作者が捉えた情景や季節感を捉えることが求められる。

指導のポイント

1 モデルとしての問題文の活用

五・七・五を中心としたリズムの十七音という限られた音数の中に、季節感や風情、作者の思いなどが、俳句には込められている。繰り返し音読することで、国語の美しい響きを感じ取りながら文語の調子に親しむことや、俳句の情景や作者の思いなどを思い浮かべることができるように指導することが大切である。また、児童が俳句を繰り返し音読しながら、言葉の美しい響きや俳句のもつリズムに着目して、俳句に表れている情景や作者の思いなどについて感じたことを交流することで、自分が想像したことを広げたり深めたりするとよい。

児童が自分の好きな俳句を選んで調べ、音読しながら紹介し合う際には、今回出題した問題文が話し合いのモデルとして活用できる。

短歌や俳句の指導に当たっては、児童の発達段階に応じた教材を選定するとともに、各地域にゆかりのある歌人や俳人、地域の景色を詠んだ歌や句などを教材として開発することなども有効である。

2 「ウェビング図」「言葉の木」の活用

高学年においては、それまでの学習経験を踏まえて、短歌や俳句をつくるという学習を行うことが考えられる。特に俳句をつくる際には、歳時記や季寄せを参考にして、自分が使ってみたい季語を集めたり、様々な俳句を音読をしたりしながら、自分が句にしたい題材を探すことも考えられる。ウェビング図を活用してイメージを広げたり、「言葉の木」などを参考にし言葉を吟味したりする活動を取り入れることも大切である。

(参照)

・国立教育政策研究所「平成29年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」

【俳句カード】

ア うまさうな 雪がふりはり ふはりかな 小林茶一

（調べた内容）

季節…雪
この俳句は「ふわりふわりと雪が落ちてくる。いかにもおいしいそうだ。食べてしまいたい。」とよんでいるそうです。

（調べた内容）

季節…冬
この俳句は「ふわりふわりと雪が落ちてくる。いかにもおいしいそうだ。食べてしまいたい。」とよんでいるそうです。

【話し合いの様子】

西山 アの俳句は、真っ白い雪がふってくる感じが伝わってくるね。イの俳句も「秋の空」という言葉から、青くすんだ空が目に見えるね。

北田 どちらの俳句も、あたりの様子がイメージできるね。それに、アの俳句の「ふはりふはり」がいいね。雪のふわふわした感じがよく伝わってくるよ。声に出して読んでみるよ。（音読）

青木 くり返し読むと、真っ白いわたあめみたいな雪が想像できるね。だから、「うまさうな」のかな。冬を楽しんでいる感じがするね。

本間 イの俳句の「ふはり」も「ふはり」も声に出して読んでみたくなるよ。どちらも声に出して読んで紹介すると、俳句のよさがもっと伝わりそうだよ。（音読）

青木 「ふはり」を声に出して読むと、（ア）がますます伝わってくるような感じがするね。

北田 さわやかな秋のおどろきを感じているのかもしれないね。小林茶一も上島鬼貫も季節を味わっているんだね。作者の伝えたいことって、今、北田さんが言ったことなのかもしれないね。このことも紹介しよう。



俳句をどのように読んでいますか。

繰り返し声に出して読んで、音の響きを楽しんでいる感じがします。



西山さんも青木さんも、様子をよく想像しています。頭の中でちゃんと映像にしているみたいです。

「ふりはり」とか「ふはり」という言葉に注目しています。



iv 小学校第6学年

1 調査問題【出題の趣旨】

1 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	一	漢字	ここでは、ノートにまとめる際に使う漢字を考える場面を設定した。なお、「親切」は、小3～小6でも出題している。
	二	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなし、明瞭な文を書く最も基礎的な事項であることから、平成29年度（正答率は76.8%、50.9%）同様、今年度も出題した。なお、類似の問題を小3～小6でも出題している。
	三	主語と述語	「主語と述語の関係の理解」については、毎年課題となっているため、平成27年度全国調査A2を参考に、出題形式を変えた問題を作成した。なお、類似の問題を小3～小6でも出題している。
2 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	「外郎売」を音読する	本問題は、古文における昔の人のものの見方や感じ方を考えながら読むことができるかどうかをみる問題であり、平成28年度全国調査A5（正答率は77.4%）を参考に作成した。ここでは、昔の人のものの見方や感じ方に関心をもち、現代人のものの見方や感じ方と比べながら読む力が求められる。
	3	「南町公園案内図」と「パンフレット」を読む	本問題は、目的に応じて、図と表を関係付けて読むことができるかどうかをみる問題であり、平成28年度全国調査A5（正答率は93.5%）で出題されたものである。ここでは、公園案内図とパンフレットにある表から、情報を関係付けながら読む力が求められる。
4	読むこと	意見や感想の書き方を考える	本問題は、文章の内容を的確に押さえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえたりしながら読むことができるかどうかをみる問題であり、平成26年度全国調査A4（正答率は77.4%）を参考に作成した。そのために、書き手の立場に立って投書を読む場面を取り上げた。読み手に対して自分の意図を伝えるために、どのような工夫をしているかを捉える力が求められる。
5	読むこと	習い事で使う筆箱を選ぶ	本問題は、必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫することができるかどうかをみる問題である。ここでは、収集した情報を、複数の条件に照らし合わせて読み、条件を満たしているものを選択する力が求められる。
6	一	【体温を上げよう!! キャンペーンの手紙】を書く	本問題は、目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えることができるかどうかをみる問題である。ここでは、「体温を上げよう!! キャンペーン」を実施するため、そのキャンペーンを行う理由や、どのようなものを分かりやすく説明する必要があることを捉える力が求められる。
	二		本問題は、目的や意図に応じて、引用をして書くことができるかどうかをみる問題である。【『エアコンが体を冷え性に!』の一部】の①から④までの文の中から、引用するのに最も効果的な文を捉える力が求められる。
7	一	「六年生を送る会」の出し物を討論する	本問題は、目的に応じて、話し合いの観点を整理することができるかどうかをみる問題である。ここでは、司会として、発言内容をよく聞き、発言内容を聞き分け、考えの立場や見解を分類・整理する力が求められる。
	二		本問題は、話の意図を捉えながら聞くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、林さんが、丸山さんの主張の中で述べられていない事柄を詳しく聞き出すという意図で質問していることを捉える力が必要がある。
8	書くこと	実験の報告文を書く	本問題は、文章全体を見通して、書く必要のある事柄を整理することができるかどうかをみる問題であり、平成21年度全国調査A4（正答率は【方法】89.8%、【予想】96.4%、【結果】95.6%）で出題されたものである。ここでは、読み手に全体の構成や内容を効果的に伝えるために適切な小見出しを考える力が求められる。
9	一 二	博物館のちらしを読む	本問題は、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、複数の情報を関係付けながら、文章を読む力が求められる。なお、同一の問題を小5でも出題している。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題			学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題		
		基礎問題	活用問題	チャレンジ問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式・記述式・短文記述式・選短記	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1ーア	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（親）	○						○					○	選	86.6	0.2			小3 小4 小5	57.9 69.7 76.5
1ーイ	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（積）	○						○					○	選	54.4	0.4				
1ーウ	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（機）	○						○					○	選	95.6	0.3				
1ーエ	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（整）	○						○					○	選	96.4	0.3				
1ーオ	当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（効）	○						○					○	選	89.9	0.5				
1ニア	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○						○					○	選	88.4	0.5	H29市【小6】	76.8	小5	85.6
1ニイ	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○						○					○	選	61.5	0.5	H29市【小6】	50.9	小5	61.4
1三ア	文を構成する主語と述語の関係を捉えることができる。	○						○					○	選	73.2	0.3			小5	69.3
1三イ	文を構成する主語と述語の関係を捉えることができる。	○						○					○	選	89.5	0.3			小5	87.4
2	古文における昔の人のものの見方や感じ方を考えながら読むことができる。	○						○					○	選	74.6	0.2				
3	目的に応じて、図と表を関係付けて読むことができる。	○						○					○	選	94.2	0.1	H29全国【小6】	93.1		
4	文章の内容を的確に押さえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえたりしながら読むことができる。	○						○					○	選	97.2	0.2	H26全国【小6】	71.9		
5	必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫することができる。		○					○					○	選	91.1	0.2				
6ー	目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えることができる。		○			○		○		○				選	78.4	0.3				
6二	目的や意図に応じて、引用をして書くことができる。		○			○		○		○				選	85.8	0.4				
7ー	目的に応じて、話合いの観点を整理することができる。		○		○			○	○					選	84.3	2.9				
7二	話の意図を捉えながら聞くことができる。		○		○			○	○					記	79.0	1.0				
8	文章全体を見通して、書く必要のある事柄を整理することができる。	○				○				○				選	94.2	0.7	H21全国【小6】	81.5		
9ー	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読むことができる。			○				○			○			選	62.0	1.0			小5	51.2
9二	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読むことができる。			○				○			○			選	80.3	1.1			小5	69.5

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

小学校第6学年 話すこと・聞くこと

特徴的な問題

問題 大問7ー

出題の趣旨

本問題は、目的に応じて、話合いの観点を整理することができるかどうかをみる問題である。そのために、「6年生を送る会の出し物を、合唱にするか、合奏にするか」という議題で討論を行う場面を設定した。ここでは、司会として、発言内容をよく聞き、発言内容を聞き分け、考えの立場や見解を分類・整理する力が求められる。

指導のポイント

1 司会の役割を理解し、立場や意図を捉えながら話合いの観点を整理する

目的や意図に応じて計画的に話し合うために、司会は重要な役割をもつ。特に、話し手の発言を受け止め、適切な観点を明確にしていくことが重要である。そのために司会には、まず発言内容をよく聞き、考えの中心となることを捉えることができるように指導することが大切である。さらに、複数の発言内容を聞き分け、考えの立場や見解を分類・整理するなどして、適切な観点を設定できるよう指導することも大切である。各教科等との関連も図りながら、全員が司会の役割を経験する機会を設けるなどして、具体的に指導することが重要である。

ここでは、司会が話合いの観点を明確にしていく手順と、その手順に応じた司会の内言について、本問に即してまとめた例を次に示す。

ステップ①

発言内容をよく聞き、考えの中心になることを捉える。

≪司会の内言（例）≫

…丸山さんは、合奏の立場だな。その理由は、自分が得意な楽器を練習することができるから、練習に取り組みやすいと考えているようだ。

ステップ②

複数の発言内容を聞き分け、考えの立場や見解を分類したり、整理したりする。

≪司会の内言（例）≫

…関口さんは、合唱の立場だな。その理由は、前に発表したとき、家の人がとても感動してくれたので、心に残る出し物になると考えているようだ。
あれ、心に残る出し物という考え方が、丸山さんと違っているな。

ステップ③

分類・整理した内容を踏まえて、話合いの観点を示す。

≪司会の内言（例）≫

…平田さんは、合唱の立場だな。その理由は、オルガンや CD プレーヤーがあれば、いつでもどこでも練習ができることから、練習に取り組みやすいと考えているようだ。
あれ、立場は違っても、共通する観点から意見を述べているな。「練習の取り組みやすさ」で、整理できそうだな。

（参照）

・ 国立教育政策研究所「平成28年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」

小学校第6学年 書くこと

特徴的な問題

問題 大問6

出題の趣旨

本問題は、目的や意図に応じ、文章全体の構成や表現を工夫して、文章を書くことができるかどうかをみるための問題である。そのために、保健委員会の活動の一環として、【体温を上げよう!!キャンペーンの手紙】を書く場面を設定した。ここでは、寒さに負けない体をつくることを呼び掛ける文章の構成を考えること、読み手を説得するための引用の効果を考えることが求められる。

指導のポイント

1 目的や意図に応じて、文章の構成を考えて書く

文章を書くことでは、書こうとする文章の種類に応じて、効果を考えながら、読み手にもよく理解できるように構成する必要がある。その際、自分の考え及び相手の理解が明確になるように、自分が伝えたい内容と構成の効果を考えることができるように指導することが大切である。具体的には、目的や意図に応じて、取材の内容や方法を工夫し、書く事柄を収集した上で、その中から、具体的な事実と自分の感想、意見などを区別しながら必要な内容を整理して書くことができるように指導することが大切である。

【体温を上げよう!!キャンペーンの手紙】

☆体温を上げよう!!キャンペーン☆

さいたま小学校 保健委員会

昨年度、インフルエンザやかぜが大流行したために学級へいさを経験した人が、たくさんいたのではないのでしょうか。

保健委員会では、インフルエンザやかぜにからないためには、どうしたらよいか、保健室の先生にインタビューをしました。すると、「体温を上げると、かぜをひきにくくなるよ。」と教えてくれました。自分たちで、さらに調べてみると、「体温が1度上がると、ていこう力が5〜6倍になること」が分かりました。

そこで、保健委員会では、「体温を上げよう!!キャンペーン」を行うことにしました。

中には、「暖房を付けて部屋を暖めればよい。」という人がいるかもしれませんが、暖房の付いた部屋ばかりにいれば、逆に体温が下がってしまうこともあるのです。「エアコンが体を冷え性に!」という本には、「ア」と書かれています。インフルエンザやかぜにかかりにくい体にするには、暖房にたよらず、体の中から温めていくことが大切なのです。

体温を上げるためにできること

- | | | |
|-----------------------------------|---------------------------------------|---|
| 1 朝食をとる
食べ物を取り入れると体内で熱がつけられます。 | 2 体を動かす
血液の流れがよくなり、体内で熱がつけられ出されます。 | 3 朝の光を浴びる
体内時計がリセットされ、眠っていた体が体温を上げようと動き始めます。 |
|-----------------------------------|---------------------------------------|---|

体温を上げて、インフルエンザやかぜにかかりにくい体をつくりましょう。

⑥ 金子さんは、保健委員会の活動として、インフルエンザやかぜにかかりにくい体をつくる呼びかけをしよう。これをよく読んで、あとの問いに答えよう。

指導事例「交流集会について、学校新聞を書こう」

<学習の流れ>

- ① 一番伝えたいことと、伝える相手を話し合い、学習課題を設定する。

学習課題 3年生に向けて、交流集会のやりがいを伝える新聞を作ろう

- ② 取材をし、記事の内容にあったものを選択する。

【低学年にインタビューした取材メモ】

1 ゲームに勝つことができてうれしかった。

2 お兄さんが優しくしてくれてうれしかったな。

3 次の交流集会も楽しみです。

4 ドッジボールで遊んだことが楽しかったよ。

- ③ 紙面の割り付けを行い、見出しを決め、記事を書く。

低学年の子が楽しんでいる様子が伝わるものがないね。

思いやりで広まる笑顔の輪

写真

○ ○ 新聞

交流集会のやりがいを伝えるには、どんな見出しがいいかな。

- ④ 完成した記事を読み合って、一番伝えたいことが伝わるかどうか相互評価する。

3年生に交流集会のやりがいを伝えたい!

下の学年の子が喜んでくれたなあ。

今回は3年生に交流集会のやりがいを伝えたいから、2と3の内容を使おう!

(参照)

- ・ 国立教育政策研究所「平成29年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」
- ・ 国立教育政策研究所「平成24年度 全国学力・学習状況調査を踏まえた授業アイデア例 小学校」

小学校第6学年 読むこと

特徴的な問題

問題 大問5

出題の趣旨

本問題は、必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫することができるかどうかをみる問題である。そのために、筆箱についての情報をインターネットで収集し、自分が決めた条件に照らし合わせて筆箱を選ぶ場面を設定した。ここでは、複数の情報を比べながら、条件を満たしているものを選択する力が求められる。

指導のポイント

1 系統的・段階的に情報を整理する力を育てる

「文章で示された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かす力」の定着を図るために、新学習指導要領では、「情報の扱い方に関する事項」が新設された。新学習指導要領に示された「情報の扱い方に関する事項」についてのキーワードをまとめると以下のとおりになる。

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校第1学年
情報と情報との関係	共通、相違、事柄の順序	考えとそれを支える理由や事例 全体と中心	原因と結果	原因と結果 意見と根拠
情報の整理		比較や分類の仕方 必要な語句 引用の仕方、出典の示し方 辞書や辞典の使い方	情報と情報の関係付けの仕方 語句と語句の関係の表し方	情報の整理の仕方 引用の仕方、出典の示し方

各学年の「情報の扱い方に関する事項」において、重点を置くべき指導内容を明確にし、指導に当たることが大切である。

2 比較の仕方を理解し、図などに表して整理する力を育てる

自分の課題を解決するためには、目的や意図に応じて、情報を比較しながら自分の考えをつくっていくことが必要である。比較をするための思考ツールとしては、「二次元表」「ベン図」「座標軸」などがある。この問題では、たくさんの対象を複数の視点で考える必要があるため、「二次元表」を用いると比較しやすくなる。

	大きさ	横にねかせる	安い
1	○	○	×
2	○	×	
3	×		
4	○	○	○

【二次元表を使って考えた例】

大切なことは、目的や条件によって思考ツールを使い分けられることができるようになることである。初期の段階では、教師が適切な思考ツールを用意して問題の解決を行い、だんだんと、子ども自らが思考ツールを選んで取り組めるように導きたい。さらに発展して、複数の思考ツールを組み合わせたり、オリジナルの思考ツールを開発して考えたりすることも考えられる。

指導していく中で留意すべき点は、思考ツールはあくまでも情報処理のためのツールであり、思考ツールを使うことが目的ではないことを伝えることである。

(参照)

- 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」
- 「授業を磨く」東洋館出版社 田村学著

【資料】インターネットを使って集めた筆箱の情報

1 価格 1250円



◆ポーチ型で、横にねかせて置いて使う。
◆布製で入口が広いので、大きなものも入り、取り出しやすい。

2 価格 850円



◆立てて使うもので、ペン立てにもできる。
◆三角定規や分度器など、大きなものも入る。

3 価格 1400円



◆ポーチ型で、横にねかせて置いて使う。
◆えん筆5本、消しゴム1個が入るサイズで、持ち運びに便利である。

4 価格 1150円



◆箱型で、横にねかせて置いて使う。
◆両面開きで、三角定規や分度器などの平らなものを入れることができる。

【決めたこと】

◇えんぴつや消しゴムの他に、三角定規や分度器を入れられるもの。
◇横にねかせて、机の上に置いて使えるもの。
◇できるだけ価格の安いもの。

【5】中山さんは、習い事で使う筆箱を買うためにインターネットを使って情報を集めました。そして、どんな筆箱を選ぶかを決めました。次の「資料」と「決めたこと」を読んで、あとの「問い」に答えましょう。

（問い）中山さんは、どの筆箱を選ばようとしていますか。「資料」の中のものの中から最もふさわしいものを選び、その番号を書きましょう。

小学校第5・6学年 チャレンジ問題

特徴的な問題

問題 (5年) 大問10ニ (6年) 大問9ニ

出題の趣旨

本問題は、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読むことができるかどうかをみる問題である。そのために、【博物館のちらし】にある関係イベントに参加できる日付を考える場面を設定した。ここでは、複数の情報を関係付けながら、文章を読む力が求められる。

指導のポイント

1 目的に応じて情報を関係付けながら必要な情報を得る

本や文章などを読む際には、目的に応じて必要な情報を得ることができるように指導することが大切である。ちらしやポスター、パンフレットなどを読む際には、一つの箇所だけを見るのではなく、複数の箇所を見ることによって、必要な情報を得られる場合があることに気付くように指導することが重要である。例えば、目的に応じてちらしやパンフレットなどに書かれている情報について下線を引いたり色分けをしたりしながら整理し、それらを関係付けることで得られる情報について話し合ったり、同じ目的で書かれた複数のちらしやパンフレットなどを読み、情報の提示方法を比較したりするなどの学習活動が考えられる。

【博物館のちらし(表)】

衣・食・住でつながる 世界文化交流展

第1期

「衣」でつながる世界

2019年 1月11日(金) - 2月17日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時
休館日：月曜日
入場料：一般300円 大学生・高校生200円
中学生以下無料

第2期：「食」でつながる世界 2月22日(金)～3月24日(日)
第3期：「住」でつながる世界 3月29日(金)～4月28日(日)

さいたま市立〇〇博物館
〒33X-XXXX さいたま市〇〇町 12-4
電話 XXX-XXX-XXXX

【行く日時を決めることを目的として】

来週の金曜日から
展示が始まるから
行きたいな。



2019年 1月11日(金) - 2月17日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時
休館日：月曜日
入場料：一般300円 大学生・高校生 200円
中学生以下無料

午後9時半から
やっているから、
午前中に行けば、
ゆっくり見られ
そうだな。



「月曜日の放課
後に…」と思った
けれど、休館日な
のね。



木曜日は、午後
3時には帰れる
から、間に合い
そうだな。

【関係イベントに参加することを目的として】

午後3時からのイベ
ントだからやっぱり
午後の早い時間に行
くことにしよう。



～民族衣装を着てみよう～
韓国のチマチョグリ、インドのサ
リー、チリのボンチョなど、様々な
国の民族衣装を着てみませんか。生
地の質感や手触りなどを実際に感じ
ることができます。
日時：開催期間中の土曜日
午後3時～午後4時
場所：1階ホール
定員：20名(無料・当日受付)

土曜日の午
後にしか参
加できない
んだな。



今度の土曜日は
何日だったかな。



終わった後
も、少し見
学できそう
だな。

(参照)

・国立教育政策研究所「平成28年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 国語」

Ⅴ 中学校第1学年

1 調査問題【出題の趣旨】

読むこと	①	文学的な文章	本問題は、場面の展開、情景描写、登場人物（主人公）の心情や行動などに注意して読み、内容の理解に役立てることなどを求めている。 これまでの市調査【中1】①と同様、基礎問題を中心に出題した。
	②	説明的な文章	本問題は、文脈の中における語句の意味を的確にとらえたり、文章の構成をとらえて内容を正確に理解したり、文章の要点を踏まえて記述したりすることなどを求めている。 これまでの市調査【中1】②と同様、基礎問題を中心に出題した。
話すこと・聞くこと	③	相手の反応を踏まえて話すこと	本問題は、資料を活用して相手の反応を踏まえて話したり、話の構成を考えて自分の意見を述べたりすることができるかを問うものである。 国語の学習と日常生活の様々な場面が密接に結び付いていることを生徒に意識させ、主体的な学びにつなげるために、「話すこと・聞くこと」と日常生活とを結び付けた内容を出題した。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	④	漢字	本問題は、これまでの市調査や全国調査において正答率が低かったものを中心に、文脈に即して漢字を正しく書くこと、文脈に即して正しく漢字を読むことを日常生活の場面と結び付けた文で出題した。
	⑤	主語と述語	本問題は、主語と述語の関係を理解しているかを問うものであり、これまでの市調査や全国調査において主語と述語の理解に課題がみられたため、小学校第3～6学年及び中学校第1、2学年で出題した。 平成29年度市調査【中1】【中2】（正答率 76.4%、19.4%）
		接続語	本問題は、接続語について理解しているかを問うものであり、これまでの市調査や、全国調査において課題がみられたため、中学校第1、2学年で出題した。 平成29年度市調査【中1】【中2】（正答率 22.4%、86.5%）
		漢字の筆順	本問題は、漢字の筆順について、字形や筆順の原則が身に付いているかを問うものである。
		歴史的仮名遣い	本問題は、文語のきまりの中での歴史的仮名遣いについて理解できているかを問うものである。これまでの市調査と同様、確実に身に付けてほしい基礎問題を出題した。 平成29年度市調査【中1】【中2】（正答率 79.2%、83.3%）
		語句の意味	本問題は、慣用句の意味を正しく理解しているかを問うものである。
読むこと・書くこと	⑥	チャレンジ問題	本問題では、さいたま市のこども観光大使としてさいたま市の魅力を写真を使ってPRする文を書く場面を設定した。PRしたい事柄を、【資料1】の4枚の写真の中から1枚を選び、【資料2】のアンケート結果と関連付けて自分の考えをまとめる（選んだ理由を書く）問題となっている。 平成27年度市調査【中1】⑦、平成28年度市調査【中1】⑥、平成29年度市調査【中1】⑥と同様、複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えをまとめる問題を出題した。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題			学習指導要領の領域等				評価の観点					問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	チャレンジ問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	に伝統的な言語文化と国語の特質	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式・記述式・短文記述式	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名（学年）	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1-1	比喩表現に注意して登場人物の心情を適切に読み取ることができる。	○					○					○		選	66.3	0.3				
1-2	叙述に沿って文章の内容を正確に読み取ることができる。	○					○					○		短	87.3	2.9				
1-3	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解している。	○					○					○		選	93.7	0.3				
1-4	読み取った事柄に基づきながら、登場人物の心情について説明することができる。		○				○					○		記	80.5	4.9				
2-1	文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解することができる。	○					○					○		短	82.2	2.1				
2-2	文章中の内容を整理し、必要な情報を正しく読み取ることができる。	○					○					○		選	85.0	0.3				
2-3	文章における論の展開を正確に読み取り、適切な接続語を考えることができる。	○					○					○		選	80.5	0.4				
2-4	文章から適切な情報を得て、考えをまとめることができる。		○				○					○		記	65.1	5.5				
3-1	聞き手に分かりやすく話すために、適切な資料を効果的に活用できる。	○			○					○				選	34.9	0.8				
3-2	聞き手の反応を踏まえて、話をするることができる。	○			○					○				選	61.9	0.8	H29市【小6】 【中1】 【中2】	76.5 83.9 76.2	中2	76.7
3-3	相手を意識して自分の考えをまとめ、論理的に分かりやすく話すことができる。		○		○					○				記	58.6	7.5				
4-1	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。（共有）	○						○					○	短	62.4	13.0				
4-2	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。（置く）	○						○					○	短	91.3	5.7	◎H29全国【小6】	77.0		
4-3	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。（想像力）	○						○					○	短	76.3	5.4				
4-4	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。（寒い）	○						○					○	短	74.3	3.0				
4-5	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。（採集）	○						○					○	短	67.7	2.0	◎H25全国【小6】	65.0		
4-6	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。（不可欠）	○						○					○	短	95.6	1.6				
4-7	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。（尊重）	○						○					○	短	93.0	1.8				
4-8	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。（果たした）	○						○					○	短	97.7	1.0				
5-1	主語と述語の関係について理解している。	○						○					○	選	69.3	1.1	H27全国【小6】 H29市【中1】 【中2】	50.0 76.4 19.4	中2	32.6
5-2	接続語について理解している。	○						○					○	短	63.7	2.3	H25全国【小6】 H28市【中1】 【中2】 H29市【中1】 【中2】	28.0 47.9 72.6 22.4 86.5	中2	68.6
5-3	漢字の筆順を理解し、正しく書くことができる。	○						○					○	短	46.1	0.8	H29市【中1】	49.6		
5-4	歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに直して読むことができる。	○						○					○	短	78.6	7.2	H28市【中1】 【中2】 H29市【中1】 【中2】	79.3 79.5 79.2 83.3	中2	59.8
5-5	語句の意味を理解し、適切に使うことができる。	○						○					○	選	50.0	1.3				
6	複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことができる。			○		○	○				○	○		記	59.1	2.0				

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 特徴的な問題と解説

中学校第1学年 読むこと（文学的な文章）

【特徴的な問題】

問題 1 加部 鈴子 著『風の子ルクライム ぼくらの自転車ロードレース』より

出題の趣旨

文学的な文章を読むためには、言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、視点を定めて読むことが必要であり、そのことによって深い理解や感動が得られる。文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読み進めることが大切である。

本問では、場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することを求めている。

資料文は、加部鈴子著『風の子ルクライム ぼくらの自転車ロードレース』の一節である。

なお、平成29年度市調査【中1】②と同様、中学校学習指導要領解説「読むこと」の指導事項に沿った基礎問題を中心に選択式・短答式・記述式の形で出題した。

指導のポイント

1. 場面の展開や登場人物などの描写に注意して内容を正確にとらえる

文学的な文章において、内容を正確にとらえるためには、場面の展開や登場人物などの描写に注意することが大切である。授業では、意味段落や場面ごとに内容を把握するだけでなく、場面の展開や心情の変化などに着目しながら文章全体を読んでいくことで、内容の理解が深まることが期待できる。その際、文学的な文章を読む中で、深い理解や感動が得られるように、以下に示すポイントを踏まえ、視点を定めて読むような様々な言語活動を設定し、指導する必要がある。

- (1) 言葉を手掛かりにしながら文脈をたどる。
- (2) 時間的、空間的な場面の展開を押さえる。
- (3) 情景描写や登場人物の言動などから、心情や心情の変化を読み取る。



2. 根拠となる描写を明らかにして、文章を解釈する

文学的な文章を読む際には、目的に応じて場面の展開や登場人物の描写に注意して読むように指導することが引き続き大切である。例えば、文章全体から登場人物の言動が分かる描写を見付け、それらを場面の展開に即して整理し、登場人物の相互関係についてまとめるとともに、登場人物の相互関係からそれぞれの人物像や内面にある深い心情をとらえるなどの学習活動が考えられる。その際、複数の場面や描写を結び付けて文章を解釈し、他の人の解釈と比較するように指導することも有効である。また、文章の理解をより深めるために、考えの根拠となった描写を具体的に示すように指導することが重要である。

また、上記の出題の趣旨にある「視点を定めて読む」とは、例えば「表現の工夫」、「比喩を用いた表現」など、全員共通の視点や各自で興味をもったことを基にした視点を明確にして読むことである。本を読む際の「視点」に沿って感じたことや考えたことをグループで交流する場合の留意点としては、「考えの根拠となる表現を文章中から引用しながら述べる」「引用した表現について、どのように読み取ったのかが分かるように説明する。特に、比喩を用いた表現については、『誰（何）』の、『どのような』様子なのかを明確にする」ことがあげられる。

（参照）

- ・国立教育政策研究所「平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 国語」 P33～P36
- ・国立教育政策研究所「平成29年度 全国学力・学習状況調査 授業アイディア例 中学校 国語」

中学校第1学年 話すこと・聞くこと

【特徴的な問題】

問題 3

出題の趣旨

「話すこと・聞くこと」の領域において、学習指導要領の第1学年「話すこと」の指導事項（1）アに「日常生活から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること」また、イに「全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと」と示されている。

本問では、総合的な学習の時間に「日本の伝統文化」について学習し、昨今、世界から関心を集める「和食」について調べ発表をする、という設定で、「3つの資料を活用して発表すること」、「聞き手の反応を踏まえて話すこと」、「話の構成を考えて自分の意見を述べること」を求めている。聞き手の反応を踏まえながら話すことや複数の資料から適切な内容を選択して発表することなど、実際の授業で行ってほしい内容を念頭に出題した。

問題 3

和食嗜好と和食の満足度

年代	男性	女性
全体	53	51
15～19才	51	57
20～29才	39	36
30～39才	36	42
40～49才	34	31
50～59才	32	30
60～69才	29	28
70～79才	25	24

和食が好きで和食が多い
和食が好きでないが和食が多い
和食が好きで和食は多くない
和食が好きでないが和食は多くない

資料A

●和食は日本人の精神
●次の世代へ継承

（おわり）

●四つの特徴

●和食文化の実態

●注目を集める和食文化

●和食文化遺産に登録

（おわり）

●和食文化の実態

●注目を集める和食文化

●和食文化遺産に登録

（おわり）

資料B

和食文化の特徴

自然の恵みを大切にする
季節の移り変わりを大切にする
健康な食生活を送る

和食文化の歴史

和食文化の歴史

和食文化の歴史

資料C

朝食のメニューは和食？和食以外？

メニュー	割合
和食が多い	38.4%
和食以外が多い	32.4%
和食系、和食以外が同じくらい	10.1%
決まっていない	10.0%
朝食を食べない	6.1%
無回答	1.7%

指導のポイント

1. 目的や場面に応じた話し方のスキルを身に付ける

中学校第1学年の「話すこと・聞くこと」の学習において、小学校で身に付けた話し方のスキルを確認すること、日常生活の中から興味・関心のある話題を選ぶこと、材料（資料）を身近な人々の体験や知識も含めて集め、整理し、自分の考えや意見を明確にすること、などが重要である。その際、発表の準備として、小グループでのリハーサルを行い、発表内容や話し方だけでなく、話の展開や構成などについてアドバイスし合う活動が効果的である。また、このような活動の際には話し手自身がどこに注目して話を聞いてほしいか、何に関してアドバイスしてほしいかなどを聞き手に明らかにすることで、有意義な活動になることが期待できる。



中学校第1学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

【特徴的な問題】

問題 5 1、5

出題の趣旨

設問5-1は、主語と述語の関係を理解しているかを問うものである。主語と述語の関係は、小学校第3学年で学習する内容であるが、これまでも言葉の特徴やきまりに関する事項の定着は全国的に課題がみられる。そこで、今年度は「さいたま市小・中一貫教育」も踏まえ、言葉のきまりにおける主語と述語については小学校第3～6学年及び中学校第1、2学年で出題した。中学校第1学年では、主語と述語を選択する問題を出題した。なお、平成29年度市調査【中1】5-1（正答率76.48%）、【中2】5-1（正答率19.4%）で課題がみられた。

また、5-5は、慣用句「板につく」の意味を正しく理解しているかどうかをみる問題である。平成30年度全国調査では、A8-四-1 慣用句「心を打たれた」（正答率94.8%）であった。

問題 5

ア 土がつく
イ 目につく
ウ 板につく
エ 耳につく

5 「態度などが、その職業などにふさわしくなる」という意味で使われる慣用句を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

1 次の文中の、主語と述語を次のア～オの中から選び、その記号を書きなさい。

春には町のいたるところで桜が咲く。

ア アイ ウ エ オ

指導のポイント

1. 言葉のきまり（文の成分）や語句・語彙について指導を工夫する

主語と述語の関係は、文の骨格をなし、明瞭な文を書く上で最も基礎となるものである。主語と述語の照応関係が大切であるということについて、文や文章を理解したり表現したりするときに強く意識できるように指導することが必要である。言葉のはたらきについては、様々な場面で学習した内容を復習する機会を設けるとともに、日常の言語活動を振り返り、言葉の特徴やきまりについて気付かせ、言語生活の向上に役立てるようにすることが重要である。また、「書くこと」の領域を学習する際には、主語・述語の関係を明らかにして、文章を構成することが効果的である。

語句・語彙に関しては、辞書的な意味を踏まえるとともに、思考力や想像力をはたらかせて文脈において具体的かつ個別的にとらえることになる。また、語句が文章の中で果たしている役割を考えることが大切である。さらに語感を磨くためにも、多くの本を読むこと、新しく出合った言葉を取り立てて、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考えることを習慣化させることが大切である。

授業アイディア例にある「語彙手帳」も語感を磨き語彙を豊かにするためには有効である。（参照）

・国立教育政策研究所「平成30年度 全国学力・学習状況調査 授業アイディア例 中学校 国語」

【特徴的な問題】

問題 6

出題の趣旨

「書くこと」の領域において、中学校学習指導要領の第1学年の指導事項（1）ウに「伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと」と示されている。本市では平成27年度よりチャレンジ問題として「書くこと」に関する問題を出題している。また全国学力・学習状況調査においても、「本や文章などから目的に応じて必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くこと」を求める「書くこと」に関する内容が出題されている。

本問題は、複数の資料（写真とアンケート）から必要な情報を読み取り、さいたま市こども観光大使として、本市の魅力をPRする写真を一つ選び、その選んだ理由を書くという設問である。

問題 6

さいたま市の魅力を伝えるものとして右の写真を選びました。なぜなら、

からです。

【資料2】

住む街を選ぶ時に重視すること

- 1 自然の多さ
- 2 交通の便利さ
- 3 安全性
- 4 スーパーやデパートなどの環境
- 5 歴史や伝統

①写真

【資料1】

イ 大型商業施設



ア ターミナル駅



エ 緑豊かな公園



ウ 伝統産業



【6】 あなたは「さいたま市こども観光大使」として、さいたま市の魅力を写真を使って伝えることにしました。次の「資料1」は、PRするための写真です。「資料2」は、住む街を選ぶ時に重視することについてアンケートの結果の一部です。

①に「資料1」のアイの中より、PRにしたい写真を二つ選び、その理由を書きなさい。また、②に、あなたが写真を選んだ理由を、「資料2」の1から5のどれか一つの項目の言葉を使って「十文字以上十文字以内」で書きなさい。ただし、文字はすべて漢字で書くこと。

指導のポイント

1. 本や資料から目的に応じて必要な情報を読み取る

実際の授業では、▶【第1時】①複数の資料を読み、二つ以上の資料の情報を関連させて考えたことや疑問に思ったことをノートに書く。② ①で書いたノートを基に、どのような情報をどのように関連させてどのように考えたのか（写真を選んだ理由）を交流し、自分の考えを広げる。③ 交流した内容を踏まえ新たに考えたことや疑問に思ったことなどをノートに書く。▶【第2時】④ 第1時に書いたノートを参考にしながら、提示された課題（さいたま市をPRする文）についての自分の考えを書く。⑤必要に応じて、学校図書館やインターネットなどを利用して、自分の考えを補足するための資料を収集する。▶【第3時】⑥第2時に書いた文章を互いに読んで、二つ以上の資料から取り出した情報を関連させながら、自分の考えを具体的に書いているかどうかという観点で話し合い、それを基に書き直す。などの学習が考えられる。

複数の資料や情報を関連付けて自分の考えをまとめる能力を育成するため、目的に応じて読み取った情報を基にして話し合ったり、同じ目的で書かれた複数の文章や資料などを読み、情報の提示方法を比較したりするなどの活動を行うことが大切である。

（参照）

・国立教育政策研究所「平成27年度 全国学力・学習状況調査 授業アイディア例 中学校 国語」

1 調査問題【出題の趣旨】

読むこと	①	文学的な文章	本問題は、登場人物の言動の意味、叙述に沿った内容の理解、心情の変化を読み取ることを求めている。 これまでの市調査【中2】①と同様、基礎問題を中心に出題した。	
	②	説明的な文章	本問題は、論の展開を正確に理解し、抽象的な概念を表す語句の役割に注意して読むことや各段落が文章全体の中で果たす役割など文章全体と部分の関係を考えて文章を読み取ることを求めている。 これまでの市調査【中2】②と同様、基礎問題を中心に出題した。	
話すこと・聞くこと	③	相手の反応を踏まえて話すこと	本問題は、話し合いをする際に、目的に沿った話し合いになるように、適切に質問すること、話し合いを効果的に展開させる発言の役割について理解することを問うものである。国語の学習と日常生活の様々な場面が密接に結び付いていることを生徒に意識させ、主体的な学びにつなげるために、「話すこと・聞くこと」と日常生活とを結び付けた内容を、平成27年度以降継続して出題している。	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	④	漢字	本問題は、これまでの市調査や全国調査において正答率が低かったものを中心に、文脈に即して漢字を正しく書くこと、文脈に即して正しく漢字を読むことを日常生活の場面と結び付けた文で出題した。	
	⑤	主語と述語	本問題は、主語と述語の関係を理解しているかを問うものであり、これまでの市調査や全国調査において主語と述語の理解に課題がみられたため、小学校第3～6学年及び中学校第1、2学年で出題した。 平成29年度市調査【中1】【中2】（正答率 76.4%、19.4%） 平成27、28年度市調査【中2】（正答率 56.4%、52.8%）	
		接続語	本問題は、接続語について理解しているかを問うものであり、これまでの市調査や全国調査において課題がみられたため、中学校第1、2学年で出題した。 平成29年度市調査【中1】【中2】（正答率 22.4%、86.5%）	
		書写	本問題は、中学校第1学年で学習した行書の基礎的な書き方を理解しているかを問うものである。平成29年度市調査【中2】（正答率 49.6%）	
		古文	歴史的仮名遣い	本問題は、文語のきまりについて理解できているかを問うものである。これまでの市調査と同様、確実に身に付けてほしい基礎問題を出題した。
			内容理解	本問題は、古文の内容を理解しているかを確認するため、主語（動作主）について出題した。
読むこと・書くこと	⑥	チャレンジ問題	本問題は、「書くこと」及び「読むこと」の領域からチャレンジ問題として出題した。我が国の「食品ロス」に係る複数の資料から、根拠を明確にして考えをまとめ（はじめの文）、それをグループで読み合い、助言を基に分かりやすく書き直すという設問である。「書くこと」の推敲を踏まえ、書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討することができるかどうかをみる問題である。 複数の資料から適切な情報を得て、根拠を明確にして自分の考えをまとめる同様の問題は平成27年度から継続して出題している。	

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題			学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題		
		基礎問題	活用問題	チャレンジ問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式・記述式・短答式・選択記	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1-1	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解している。	○					○					○		選	81.9	0.1				
1-2	叙述に沿って、文章の内容を正確に読み取ることができる。	○					○					○		短	78.1	2.5				
1-3	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解している。	○					○					○		選	63.4	0.3				
1-4	読み取った事柄に基づきながら、登場人物の心情について理解することができる。		○				○					○		記	27.9	4.1				
2-1	文章中の内容を整理し、必要な情報を正しく理解することができる。	○					○					○		選	58.6	0.5				
2-2	文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解することができる。	○					○					○		選	89.4	0.3				
2-3	論の展開を追いつながら正確に読み取ることができる。	○					○					○		選	46.2	0.4				
2-4	段落が文章全体の中で果たす役割についてとらえることができる。	○					○					○		選	65.6	0.6				
3-1	聞き手の反応を踏まえながら、工夫して話すことができる。	○			○					○				選	76.7	0.6	H29市【小6】 【中1】 【中2】	76.5 83.9 76.2	中1	61.9
3-2	必要に応じて質問しながら聞き取ることができる。		○		○					○				記	32.9	4.4				
3-3	話題になっている物事について別の視点から考えることができる。	○			○					○				選	83.4	1.2				
4-1	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。（方針）	○					○					○		短	61.0	15.8				
4-2	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。（多様性）	○					○					○		短	37.3	14.0				
4-3	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。（会議）	○					○					○		短	79.7	3.6				
4-4	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。（備えて）	○					○					○		短	66.8	16.2				
4-5	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。（革新的）	○					○					○		短	83.8	1.9				
4-6	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。（相違）	○					○					○		短	62.2	13.2	◎H24全国【中3】			
4-7	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。（分析）	○					○					○		短	90.4	1.5				
4-8	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。（尊さ）	○					○					○		短	75.7	5.5				
5-1	主語と述語の関係について理解している。	○					○					○		選	32.6	1.0	H27全国【小6】 H29市【中1】 【中2】	50.0 76.4 19.4	中1	69.3
5-2	接続語について理解している。	○					○					○		短	68.6	2.2	H25全国【小6】 H28市【中1】 【中2】 H29市【中1】 【中2】	28.0 47.9 72.6 22.4 86.5	中1	63.7
5-3	漢字の行書の基礎的な書き方について理解して書くことができる。	○					○					○		選	83.5	0.8	H29市【中2】	84.6		
5-4①	古文における主語と述語の関係を理解して古典の世界に触れることができる。	○					○					○		選	56.3	2.2				
5-4②	歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに直して読むことができる。	○					○					○		短	59.8	5.7	H28市【中1】 【中2】 H29市【中1】 【中2】	79.3 79.5 79.2 83.3	中1	78.6
6	複数の資料を基にして書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にすることができる。			○		○	○				○	○		記	1.8	14.4				

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。
調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査
なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。
※「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 特徴的な問題と解説

中学校第2学年 読むこと(説明的な文章)

【特徴的な問題】

問題 2 佐藤 成美 著『おいしさの科学』より

出題の趣旨

説明的な文章は、論の展開の中心となる部分とそれを支える例示や引用などの付加的な部分とが組み合わされていたり、事実を述べた部分と意見を述べた部分とで構成されていたりする。説明的な文章の特徴を踏まえて読むことで、内容を把握することができる。

本問では、文章の展開に即して情報を整理し、内容をとらえること、段落が文章全体の中で果たす役割をとらえ、内容の理解に役立てることなどを求めている。

資料文は、佐藤 成美 著『おいしさの科学』からの抜粋である。ここでは、日本人の主食である「米」のおいしさの秘密について述べている。

なお、平成29年度市調査【中2】2と同様、中学校学習指導要領解説「読むこと」の指導事項に沿った基礎問題を中心に選択式の形で出題した。



指導のポイント

1. 文章の展開に即して情報を整理し、内容をとらえる

説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開に即して情報を整理し、内容をとらえるように指導することが大切である。文章の内容をとらえる際には、中心となる話題や重要な言葉がどのように言い換えられたり、繰り返し用いられたりしているのかを考えさせる必要がある。また、目的に応じて必要な情報を読み取る際には、自分にとって必要な事柄を明確にし、それに即して情報を取捨選択しながら読み進めるように指導することが大切である。そのためには、例えば全員が同じ目的で読むだけではなく、同一の教材を用いた学習であっても、個々に異なる目的をもって文章を読んで必要な情報を整理することなどが考えられる。

2. 段落が文章全体の中で果たす役割をとらえ、内容の理解に役立てる

説明的な文章を読む際には、段落ごとの内容をとらえたり、段落相互の関係を正しく押さえたりしながら、文章全体におけるそれぞれの段落の役割をとらえるように指導することが大切である。例えば、目的に応じて説明的な文章を読み、文章中に示されている具体的な例が、書き手の論の展開の中で果たしている役割について考えたり、各段落で述べられている事柄の順序が書き手の考えにどのような説得力をもたらしているかなどについて考えたりしながら文章の内容を理解するなどの学習活動が有効である。

▶【言語活動】「興味をもったり疑問に思ったりしたことについて調べる。」

新聞や雑誌、テレビの報道などから興味をもったり疑問に思ったりしたことを書き留めておく。
(授業前の準備)

身の回りの様々な事象から興味をもったり疑問に思ったりしたことを出し合い、グループで一つの課題を設定する。ワークシートを活用し、課題を解決するために必要な情報を収集することについて見通しを立てる。ワークシートを基に、実際の情報を収集する。(第1・2時)

必要な情報を収集するための方法として適切であったかどうかについて、グループで話し合い、必要に応じて再収集の方法について考える。収集した情報を整理し、グループで設定した課題を解決する。(第3・4時)

(参照)

- ・ 国立教育政策研究所「平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 国語」 P40～P43
- ・ 国立教育政策研究所「平成30年度 全国学力・学習状況調査 授業アイディア例 中学校 国語」

【特徴的な問題】

出題の趣旨

「話すこと・聞くこと」の領域において、学習指導要領の第2学年の指導事項（1）才に「相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して、自分の考えを広げること」と示されている。

本問では、「目的に沿った話し合いになるように、適切に質問すること」、「話し合いを効果的に展開させる発言の役割について理解すること」を求めている。ここでは文化祭での発表の内容を決めることを題材にして、各班からの提案を基に学級全体で話し合いを進める場面を設定した。

なお、平成27年度より「話すこと・聞くこと」に関する内容を実際の授業での活用を念頭に出題している。

問題 3

佐藤さんの学校では、文芸で何と発表するか話し合っています。次の発言の順番を読んで、その順に答えてください。

文芸のテーマは「東京サリリビタ パラリビタ」にむけて、国際的な学校校をテーマとします。自分の学校で、今は、近たの市と姉妹都市で、その国々とのつながりについて、クラスで発表する内容を決まう」ということを決断しました。

それでは皆さんに新しく決めた発表テーマについて、

一学年では、姉妹都市である六郷市の国の旗を調べて発表するという案が出ました。

二学年では、六郷市の国で遊ぶときに、いふお話を文化について調べ発表するといふ案が出ました。

三学年では、六郷市の国にきて、テーマパークのおけ敷について調べ発表するといふ案が出ました。

三学年代表者

二学年代表者

一学年代表者

司会者

三学年代表者

二学年代表者

一学年代表者

三学年代表者

二学年代表者

一学年代表者

三学年代表者

二学年代表者

一学年代表者

指導のポイント

1. 目的や場面に応じた話し方のスキルを身に付ける

- (1) 話し合いをする際には、目的に沿った話し合いになるよう指導する必要がある。そのためには、お互いの発言に対して、その意図や理由が不明確な場合は、質問をしたり確認をしたりするなど、テーマとの関係を考えさせながら話し合いが効果的に展開するよう指導することが重要である。
- (2) 話し合いを効果的に進めるためには、話し合いの話題や方向をとらえて自分の考えをまとめ、新たな視点から提案するなど、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うよう指導することが大切である。また、パネルディスカッションなどのように、異なる立場の意見を聞いて自分の考えを深めていくことができる学習活動を工夫する必要がある。
- 



(参照)

・国立教育政策研究所「平成22年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 国語」 P125～P127

中学校第2学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

【特徴的な問題】

問題 5 2、4

出題の趣旨

5-2は、「二文で書かれた文章を、適切な接続語を用いて一文にすること」を問う設問である。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」中学校第1学年イ（工）に示されている「単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意する。」という内容が身に付いているかどうかをみる問題である。

接続語に関する問題については、市調査平成28年度【中1】正答率47.9%、【中2】正答率72.6%。同平成29年度【中1】22.4%。【中2】86.5%で中学校第1学年に課題がみられる。

5-4は、①は、古文の内容を理解しているかどうかをみるために主語（動作主）について出題した。また、②は、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる問題である。歴史的仮名遣いに関しては、市調査平成29年度【中1】正答率79.2%、同【中2】正答率83.3%、全国調査平成30年度【中3】正答率63.4%である。

問題 5 ② やしなはす^② を現代仮名遣い^ふに直して書きなさい。 ① 来ぬ^①の主語として、最も適切なものを本文中の ア～ウの中から一つ選び、その記号を書きなさい。	本文略	4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。 なお、左側の小さな文字は口語訳です。	2 次の①と②の二つの文を、 意味を変えずに一つの文に書きかえなさい。 ① たくさん練習した。 ② しかし、結果は良くなかった。
---	------------	--	--

指導のポイント

1. 接続語についての指導を工夫する

接続語とは、接続詞や接続助詞を含む「つなぎの言葉」といわれるものである。このような文法的な内容を理解することも必要だが、それ以上に日常生活の場面における指導が大切である。そこで、言葉のきまりについて学ぶ際に、接続語を分類したり、接続語を用いた短文を書いたりすることで、使い方を実感的に理解することや、「書くこと」の授業において、接続語を効果的に用いて分かりやすい文を書く学習活動などが有効である。

2. 文語のきまりについて理解する

文語のきまりについては、言葉の意味を考えながら音読したり、音読を聞いたりすることを通して古典特有のリズムを味わいながら理解するように指導することが大切である。

なお、古典の学習の際には、例えば、古典の文章と現代語訳とを併せて読んで内容を理解したり、古典の文章とともに示されている解説文などを手掛かりにして内容を理解したりするなどの学習活動が考えられる。

【特徴的な問題】

問題 6

出題の趣旨

「書くこと」の領域において、中学校学習指導要領の第2学年の目標に「目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる」とある。この目標を受けて、指導事項ウ、エ、オに「記述」「推敲」「交流」に関する内容が示されている。今回は、これに、中学校第1学年の指導事項ウ、エ、オを関連させて「書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討することができるかどうか」をみる問題を出題した。

問題 6

○ 取組んだことの内容は、含めずに書く方です。

○ 本文の内容が読み取りやすいように、適切な表現に書き直してください。

○ 資料の内容を正確に読み取り、正確に書き直してください。

はじめの文

私は食品ロスを減らすために、飲食店は仕入れた食品を捨てないよう、二重の敷物を減らすべきだと思う。なぜなら、日本の食品メーカーや小売店やレストランなどの飲食店から出る食品ロスは約300万トンあり、また、調理の際に食べられなかった部分を捨てている。また、家庭から出る食品ロスは約100万トンに達している。ところが、食品メーカーや家庭から出る食品ロスを合わせると、年間では400万トンとなり、世界の食糧援助量の二倍近い食品ロスが発生しているからだ。

資料 A

日本の食品ロス 632万トン > 世界の食糧援助量 320万トン

国民一人が毎日お茶碗1杯のご飯を捨てていることに！

資料 B

	食品ロスとなっているもの	発生量
食品メーカー	定常カット食品や期限切れ食品などの返品、製造過程で発生する印刷ミスなどの規格外品	
小売店	新商品販売や規格変更に合わせて店頭から撤去された食品、期限切れなどで販売できなくなった在庫など	約330万トン
レストランなどの飲食店	客が食べ残した料理、客に提供できなかった仕込み済みの食材など	
家庭	調理の際に食べられる部分を捨てている食べ残し、冷蔵庫などに入れたまま期限切れとなった食品など	約302万トン
合計		約632万トン

資料 C

飲食店での食品ロスの原因

仕込み過ぎ 29%
食べ残し 58%
流通・保管過程 2%
仕込み過ぎ 1%

家庭での食品ロスの原因

食べ残し 19%
過剰除去 54%
食べ残し 27%

指導のポイント

1. 本や資料から目的に応じて必要な情報を読み取る

本調査では平成27年度よりチャレンジ問題として「書くこと」及び「読むこと」に関する問題を 출題している。本問では、昨今社会問題となっている我が国の「食品ロス」に係る複数の資料から、根拠を明確にして自分の考えをまとめ、さらにグループで読み合い、助言を基に分かりやすく書き直すという学習活動を想定し問題を設定した。

実際の授業では、▶【第1時】①複数の資料から分かったことをノートに書く。②①で書いたノートを基に、課題について根拠を明確にして考えをまとめる。③書いた文章をペアやグループで読み合い、表記や語句の用法、叙述の仕方、伝えたい事柄等にふさわしい語句や文の使い方、文や段落相互の関係などの意見や助言を基に、新たに考えたことや疑問に思ったことなどをノートに書き加える。▶【第2時】④③までのノートを参考にしながら、提示された課題について自分の考えを書く。⑤必要に応じて、学校図書館やインターネットなどを利用して、自分の考えを補足するための資料を収集する。▶【第3時】⑥書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などを踏まえ、工夫した点などについて交流したり助言したりするとともに課題に対する考えを互いに深める、などの学習が考えられる。こうした複数の資料や情報を関連付けて自分の考えをまとめるような課題を、授業の中に意図的・計画的に取り入れていくことが大切である。

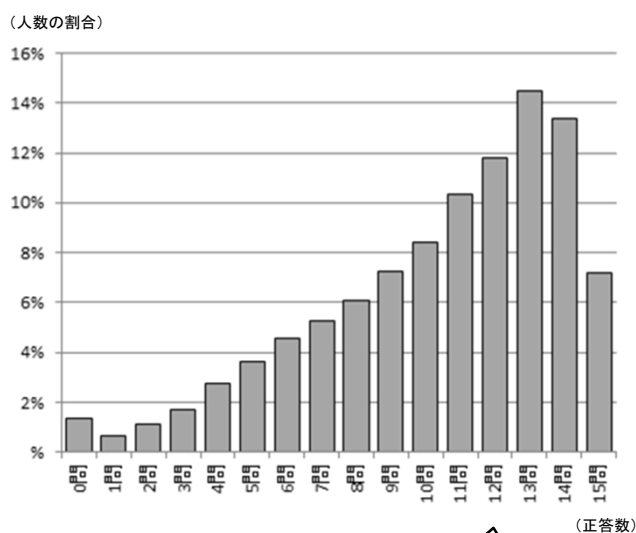
(参照)

・国立教育政策研究所「平成27年度 全国学力・学習状況調査 授業アイディア例 中学校 国語」

Ⅲ 調査結果概況【市全体】

小学校第3学年【国語】

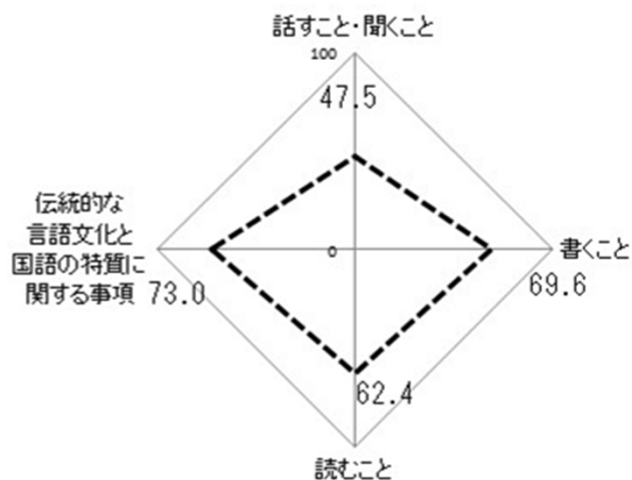
【正答数分布】(全15問)



正答数ごとの人数の割合を示したものです。
例えば、15問中12問正答した児童の割合が12.0%程度であることを表しています。

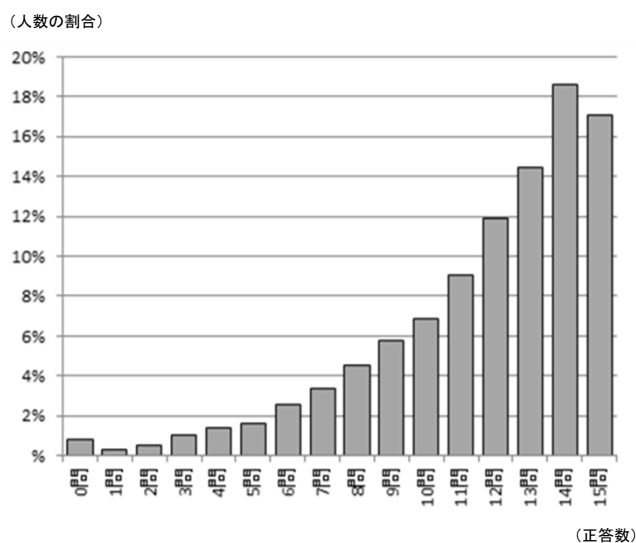
【領域別レーダーチャート】

数字・・・市の平均正答率(%)



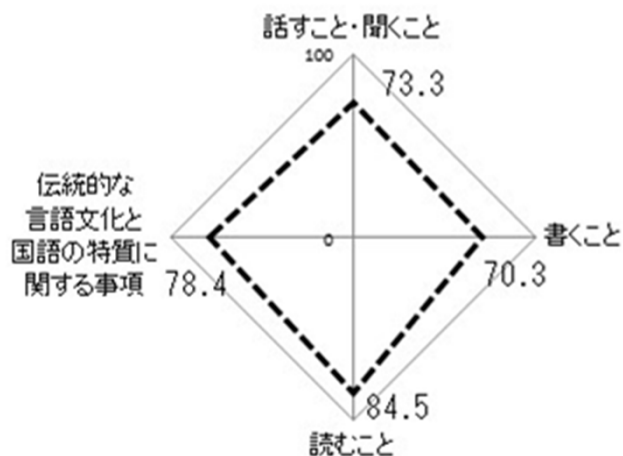
小学校第4学年【国語】

【正答数分布】(全15問)



【領域別レーダーチャート】

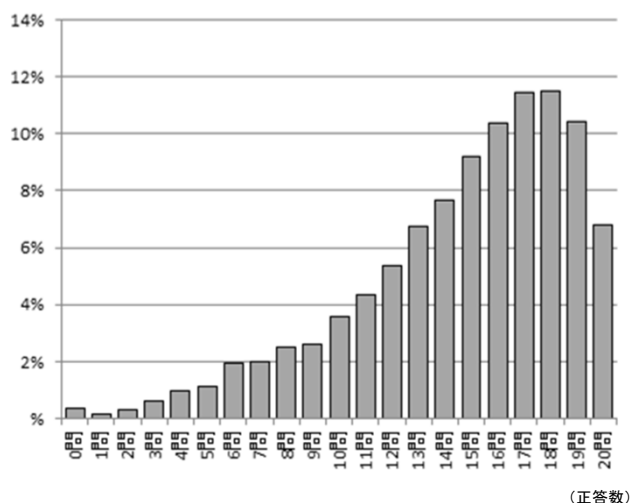
数字・・・市の平均正答率(%)



小学校第5学年【国語】

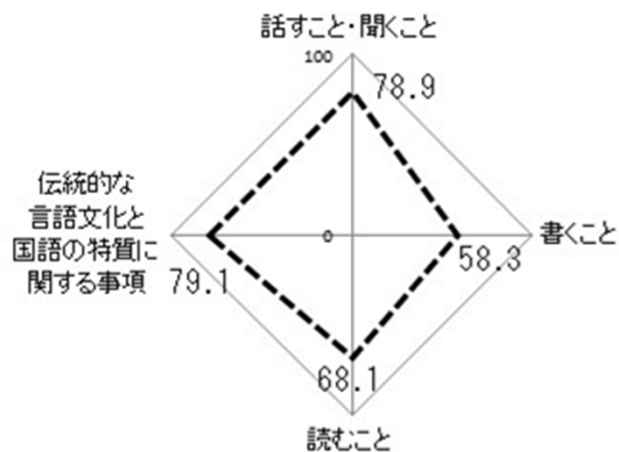
【正答数分布】(全20問)

(人数の割合)



【領域別レーダーチャート】

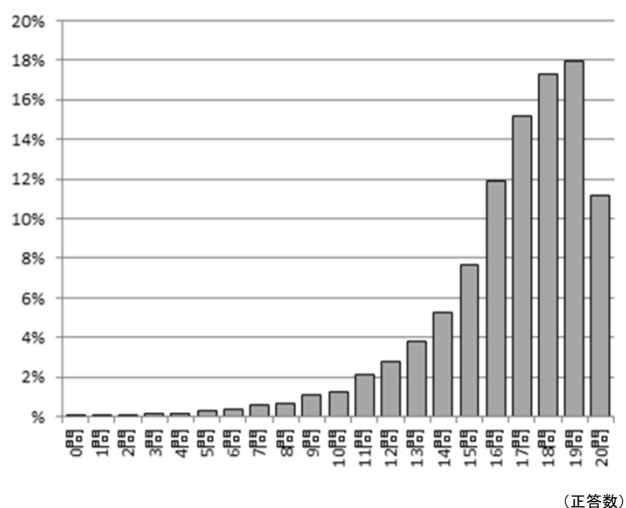
数字…市の平均正答率(%)



小学校第6学年【国語】

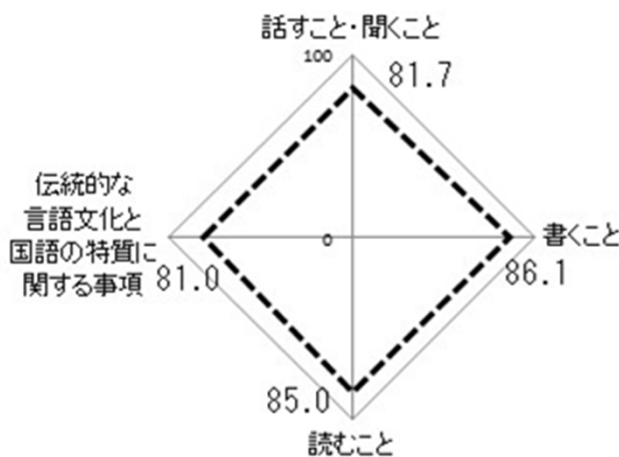
【正答数分布】(全20問)

(人数の割合)



【領域別レーダーチャート】

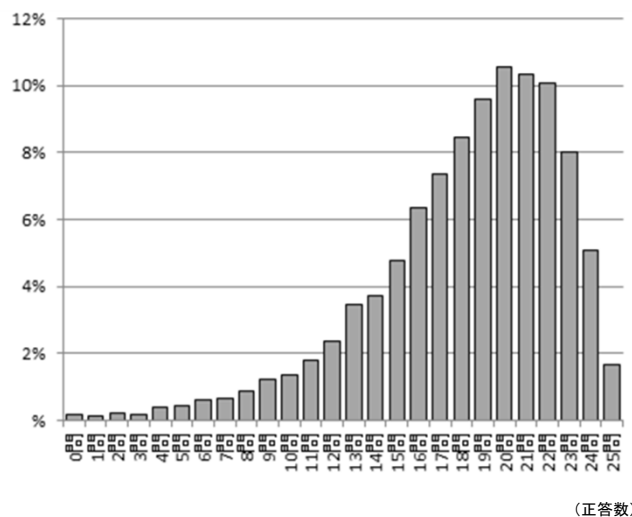
数字…市の平均正答率(%)



中学校第1学年【国語】

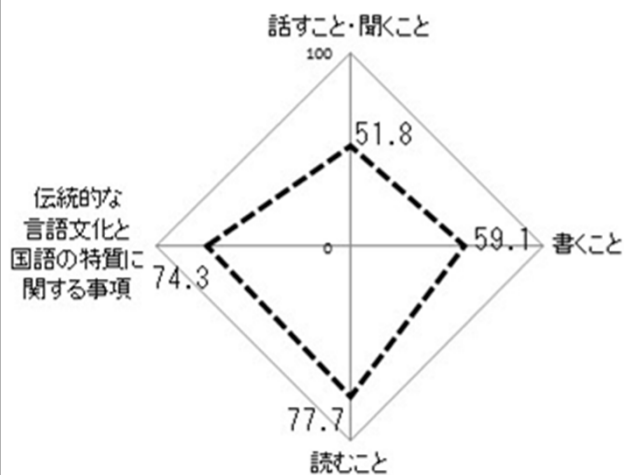
【正答数分布】(全25問)

(人数の割合)



【領域別レーダーチャート】

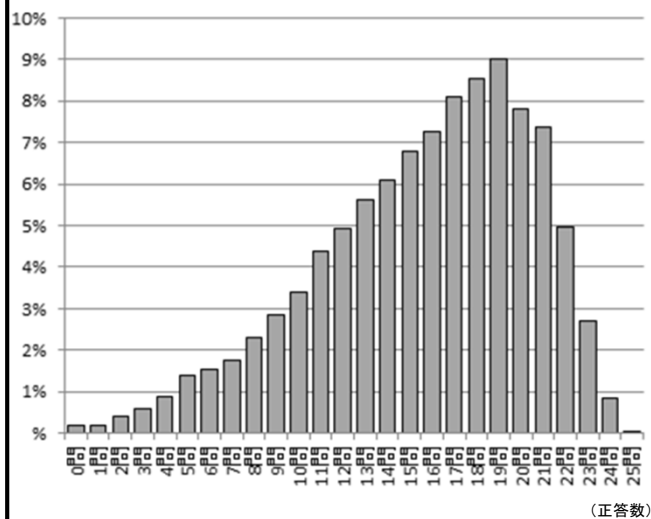
数字…市の平均正答率(%)



中学校第2学年【国語】

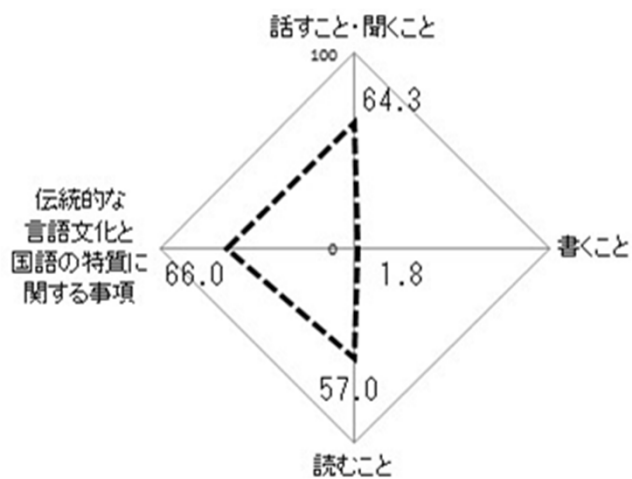
【正答数分布】(全25問)

(人数の割合)



【領域別レーダーチャート】

数字…市の平均正答率(%)



Ⅳ 成果・課題と解決の糸口

(1) 小学校

※ 線は、解決の糸口

<成果>

- 各学年で出題した「文の中の主語と述語の関係を理解すること」については、平成29年度の市調査に比べ、改善の傾向がみられる。「書くこと」や「読むこと」の学習と関連させ、様々な文の主語と述語との関係を押さえながら指導をした成果だと考えられる。
- 小6で出題した「目的に応じて、図と表を関係付けて読むこと」「文章の内容を的確に押さえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえたりしながら読むこと」「必要な情報を得るために効果的な読み方を工夫すること」については、相当数の児童ができている。目的に応じて、複数の本や文章などを様々な読み方で読むことを、課題解決の過程に適切に位置付けて指導してきた積み重ねであると考える。

<課題と解決の糸口>

- ▲小3、小4で出題した「はがきの表書きに必要な事柄の順序を考えて書くこと」で課題がみられる。はがきの基本的な形式とともに、その形式がもつ意味について理解できるように指導することが大切である。
- ▲小3の「互いの考えを聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うこと」で課題がみられる。様々な話合いの場面で、発言の共通点や相違点を確認したり内容をまとめたりする機会を増やす場面ができるよう指導する必要がある。
- ▲小5の「目的や意図に応じて、必要な事柄を整理して簡潔に書くこと」で課題がみられる。書く材料についての情報の収集や構成、まとめ方などを、目的や意図と照らし合わせながら工夫する学習を積み重ねる必要がある。

(2) 中学校

<成果>

- 中1では、「読むこと」の「登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解すること」や「文章中の内容を整理し、必要な情報を正しく読み取ること」など基礎的・基本的な内容についてはできている。また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（以下、「言語事項」）の「文脈に即して漢字を正しく読むこと」はおおむねできている。
- 中2では、「読むこと」の「登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解すること」、「叙述に沿って文章の内容を正確に読み取ること」、「文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること」はできている。「話すこと・聞くこと」の「話題になっている物事について別の視点から考えること」はできている。

<課題と解決の糸口>

- ▲中1では、「話すこと・聞くこと」の、「聞き手に分かりやすく話すために、適切な資料を効果的に活用すること」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「漢字の筆順を正しく書くことや語句の意味を適切に使うこと」に課題がある。資料作りの工夫や語彙を豊かにする指導の工夫が大切である。
- ▲中2では、「書くこと」（チャレンジ問題）では、「複数の資料の情報を正確に読み取ること」、「書いた文章を助言を基に分かりやすい文章に書き直すこと」、併せて「問題文を正確に読み取ること」に課題がみられた。日頃より書く活動を積極的に取り入れるとともに、時事的な事柄など社会生活の中からも題材を集め、複数の資料や情報を関連付けて自分の考えをまとめる活動などを工夫して行いたい。